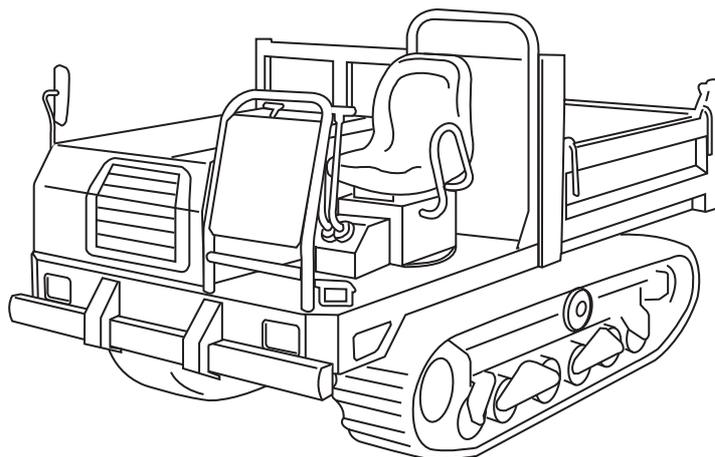


不整地運搬車
S25A

取扱説明書



▲ 警告

この説明書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

この説明書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも調べられるように大切に保管してください。

3670 5501 002

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396 福岡県うきは市吉井町大字福益90-1
TEL (0943)75-2195 (代) FAX (0943)75-4396

ユーザーの皆様へ

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しい取り扱いをしてください。

警告

本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。したがって、本製品の運転および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

警告

本製品は作業用の運搬車ですので、それ以外の用途には使用しないでください。また、公道および公道とみなされる道路での運転はできません。当該道路上での事故および違反については、当社では責任を負えません。

警告

本製品を改造して使用しないでください。また、本体の安全カバー等を取外して運転しないでください。重大な事故の原因となります。

事業者の皆様へ

▲ 注意

本製品は、労働安全衛生法施行令で定める不整地運搬車に該当します。本製品の運転には、不整地運搬車運転技能講習の修了が必要です。また、不整地運搬車は日常点検、定期自主点検、特定自主点検が義務付けられています。なお、定期自主点検記録は3年間保存してください。

リース（レンタル）業者の皆様へ

▲ 注意

本製品を他の事業者または個人に貸す際には、取扱い方法を明確に説明し、使用前に本書を必ず読むように指導してください。

目 次

1.	はじめに	1
1.1	本書の目的について	1
1.2	本書の構成について	1
1.3	本書の警告用語について	2
1.4	本製品に貼付してある警告ラベルについて	3
2.	保証とアフターサービスについて	6
3.	安全運転・作業のための心得	7
4.	各部の名称とはたらき	11
5.	製品仕様	14
5.1	本製品の仕様	14
5.2	工具袋明細	15
6.	運転と操作	16
6.1	運転前の準備	16
6.1.1	燃料の給油	16
6.1.2	エンジンオイル量の点検と補給	17
6.1.3	エンジン冷却水量の点検と補給	18
6.1.4	シートの位置調整	18
6.2	始動のしかた	19
6.3	運転のしかた	21
6.4	停止のしかた	23

6.5	ダンプ操作	24
6.6	ターン操作（ターン&ダンプ仕様車）	25

7. 保守（お手入れ） 26

7.1	定期点検表	26
7.2	給油、給脂、注油、給水一覧表	31
7.3	給油	32
7.3.1	エンジンオイル	32
7.3.2	HSTオイル（油圧作動油）	34
7.3.3	走行モータ潤滑油（減速機用）	35
7.4	給脂・注油	35
7.5	給水	37
7.5.1	エンジン冷却水	37
7.5.2	バッテリー液	38
7.6	清掃・交換	40
7.6.1	エアクリーナエレメント	40
7.6.2	エンジンオイルフィルタカートリッジ	40
7.6.3	フューエルフィルタカートリッジ	41
7.6.4	燃料タンクの水抜き	41
7.6.5	HSTフィルタエレメント	41
7.6.6	サクションフィルタエレメント	42
7.6.7	ローラのローテーション禁止	42
7.7	調整	43
7.7.1	冷却ファンベルトの張り	43
7.7.2	燃料系統のエア抜き	44
7.7.3	クローラの張り	45
7.7.4	操向レバー	47
7.8	電装品	48
7.8.1	ヒューズ	48
7.8.2	スローブローヒューズ	49
7.9	使用後のお手入れ	49
7.10	廃棄物の処理について	50
7.11	洗車時の注意	50

8. 格納（長期保管） 51

8.1	本機（車両）	51
8.2	バッテリー	51
8.3	エンジン	52
8.3.1	エアクリーナエレメントの清掃	52
8.3.2	エンジンオイルの交換	52
8.3.3	エンジン冷却水の排出	52

9. 不具合発生時の処置 53

9.1	不具合診断表	53
-----	--------	----

10. 本機の移送 58

10.1	自動車（トラック等）への積み降ろし	58
10.2	クレーン等による吊り上げ要領	59

11. 消耗品と交換インターバル 60

<保証書>

別紙に添付

※ 本機の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

<付 録>

「エンジン取扱説明書」（工具袋に同封）

※ 本書と併せて必ずお読みください。

1. はじめに

1.1 本書の目的について

本書の目的は、本製品について、正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために詳しい情報を提供することです。

また、本書は、はじめてこの製品を使用される方を対象として制作しています。

1.2 本書の構成について

本書では以下の章に分けて情報を記載しています。

1. はじめに

この章では、本書の目的、構成および本書で使用している警告用語について説明しています。また、本製品に貼付してある警告ラベルについても記載しています。

2. 保証とアフターサービスについて

この章では、本製品の保証およびアフターサービスに関する事項を記載しています。

3. 安全運転・作業のための心得

この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。

4. 各部の名称とはたらき

この章では、各部の名称とはたらきについて説明しています。

5. 製品仕様

この章では、本製品の仕様について記載しています。また、工具袋の明細についても記載しています。

6. 運転と操作

この章では、運転前の準備、運転手順および操作方法について説明しています。

7. 保守（お手入れ）

この章では、定期点検、給油、給脂、注油、給水、清掃、交換、調整および使用後のお手入れに関する情報を記載しています。

8. 格納（長期保管）

この章では、格納（長期保管）に関する情報を記載しています。

9. 不具合発生時の処置

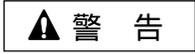
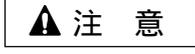
この章では、不具合が発生した場合の処置について記載しています。

10. 本機の移送

この章では、本機を移送する場合の方法と注意事項について説明しています。

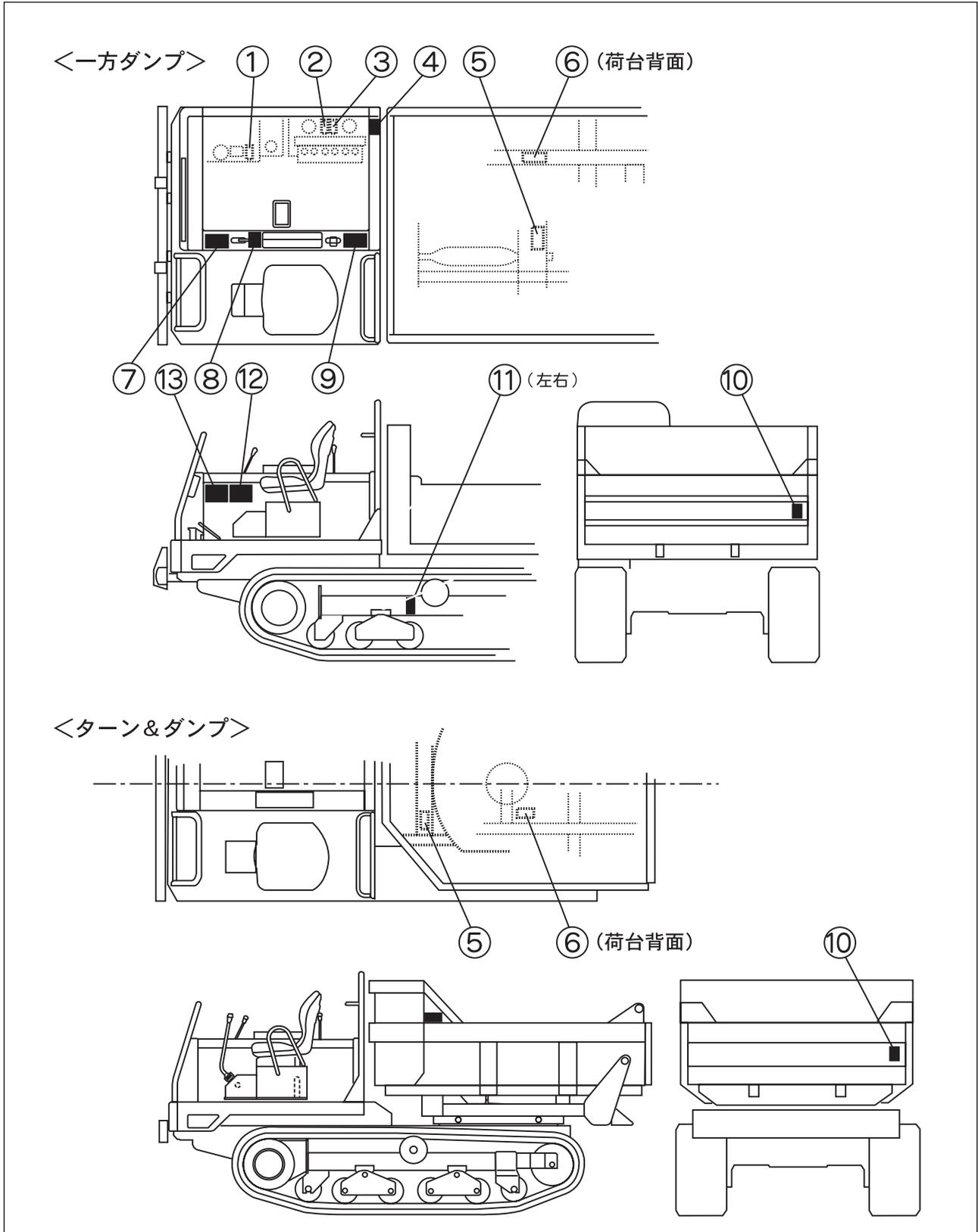
1.3 本書の警告用語について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を次の4段階に分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意 味
 危 険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
 警 告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
 注 意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
注 記	とくに注意を促したり、強調したい情報について使用されます。

1.4 本製品に貼付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。はがれたり、見えにくくなった場合には、ラベル下の部品番号にて販売店へ注文し、新たに貼付してください。



①



爆発



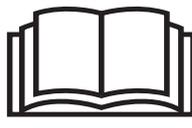
分解・修理・火気厳禁

52295024000

②



感電;ケーブル取扱時



取扱説明書を読み

52295022000

③



やけど



開けるな

52295021000

④



転落



乗るな

52295019000

⑤



やけど



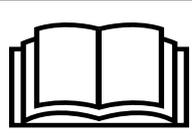
触るな

52295025000

⑥



ボディー落下



取扱説明書を読み

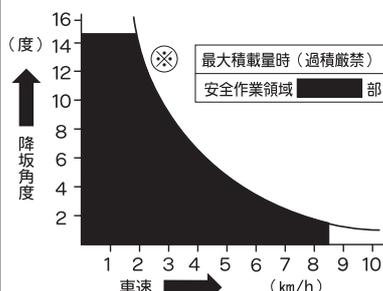
52295017000

⑧

注意

降坂速度の規制

- 降坂角度により下記速度以下でご使用ください。
- 積み下る時は特に急坂路になればなるほど、エンジン回転を下げてゆっくりと走行してください。



最大積載量時(過積厳禁)
安全作業領域

※ この降坂角度以上の坂を積み下るとHST制動力(ブレーキ性能)を超えるため、停止できない恐れがあります。

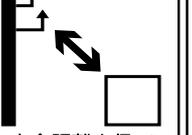
52295038000

⑦

 警告  取扱説明書を読み	 やけど  触るな	 巻き込まれ  STOP 整備中、回転停止
--	--	---

52295004000

⑨

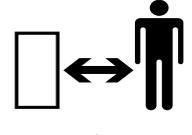
 はね飛ばされ  取扱説明書を読み	 感電  安全距離を保て	 ボディー落下  取扱説明書を読み
--	---	--

52295007000

⑩



ひかれ



近づくな

52295018000

⑪



プラグ飛び出し



取扱説明書を読み

52295016000

2. 保証とアフターサービスについて

保証について

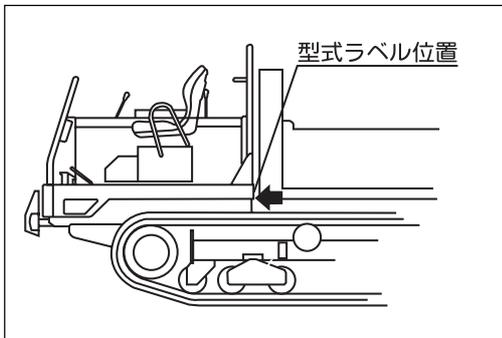
当社は本製品について、「保証書」の内容に基づいて保証をいたします。詳しくは添付の「保証書」を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店にお気軽にご相談ください。

その際、型式ラベルに記載の商品型式および製造番号を併せてご連絡ください。

<型式ラベル位置>



<型式ラベル>

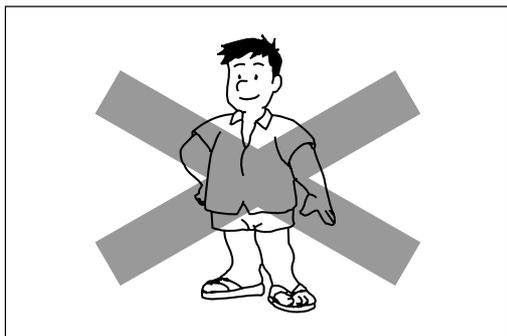


補修用部品の供給年限（期間）について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後7年とします。

3. 安全運転・作業のための心得

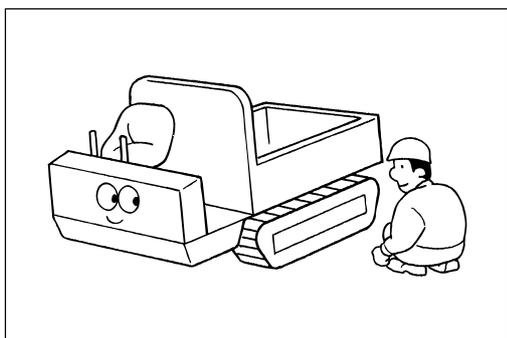
この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。本章以外で記載している各章の安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心掛けてください。



運転前の心得

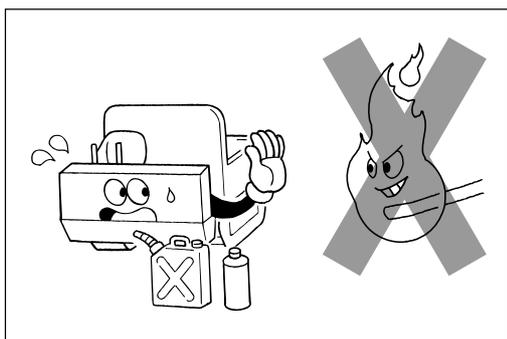
⚠️ 正しい服装の励行

運転および作業にふさわしい服装を心掛け、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



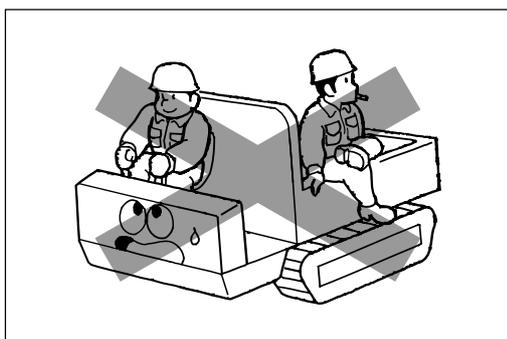
⚠️ 始業点検の励行

運転の前に始業点検を必ず励行し、異常箇所は直ちに補修してください。



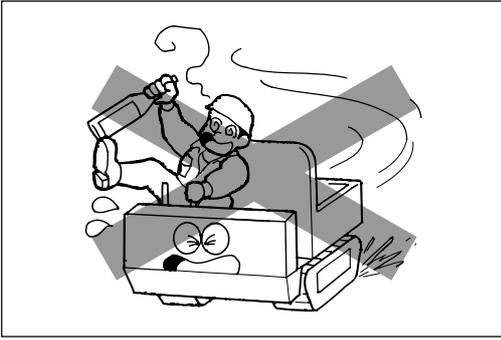
⚠️ 火気厳禁

燃料、油脂の取扱い時は、絶対に火気（タバコの火など）を近付けないでください。また、バッテリーの充電中やエンジンの整備時にも火気には十分注意して作業をしてください。



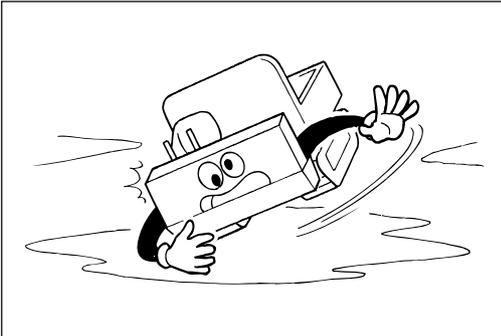
⚠️ 同乗禁止

本製品は一人乗りです。同乗者を伴う運転は、重心の移動等が起こり大変危険です。運転者以外は絶対に乗せないでください。



⚠ 無謀運転禁止

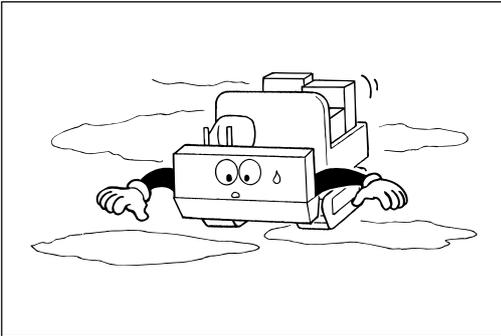
飲酒をして運転したり、体調不良時に無理に運転をすると大変危険です。絶対におやめください。
また、本製品の運転に適さない若年者の運転も絶対におやめください。



走行時の心得

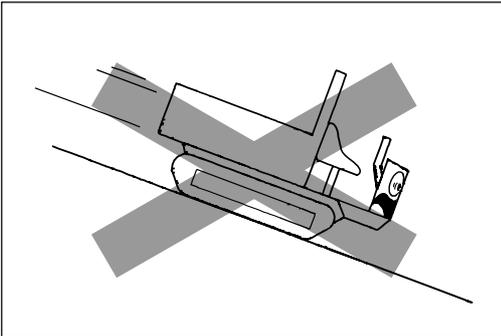
⚠ 急発進、急加速、急旋回、急ブレーキの禁止

急発進、急加速、急旋回および急ブレーキは避け、安全運転を心掛けてください。発進の前には必ず周囲の安全を確認し、軟弱な地盤やぬれた路面での急旋回および急停車はスリップや転倒を招くおそれがあり危険ですので、絶対にしないでください。



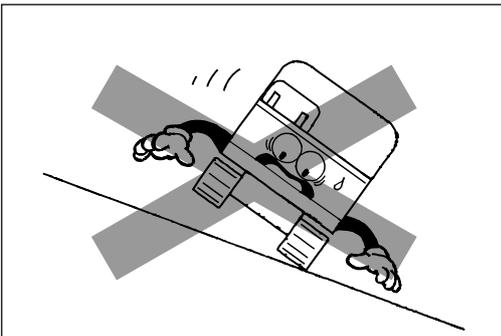
⚠ 安全速度遵守

走行時は、走行路の勾配、路面の状態および積載量に応じた安全速度で走行してください。



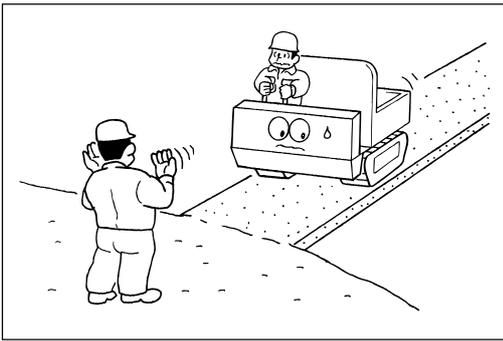
⚠ 下り坂ではエンジnbrakeを

下り坂の前では、高低速切替スイッチを「低速」位置に入れ、エンジン回転を下げゆっくりと走行してください。



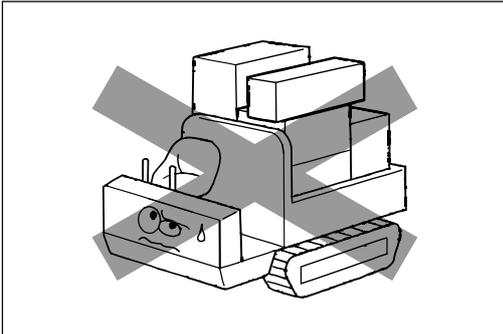
⚠ 斜面での横断禁止

傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面を横断すると、転倒のおそれがあり危険です。



⚠ 危険な場所では誘導者の指示に従う

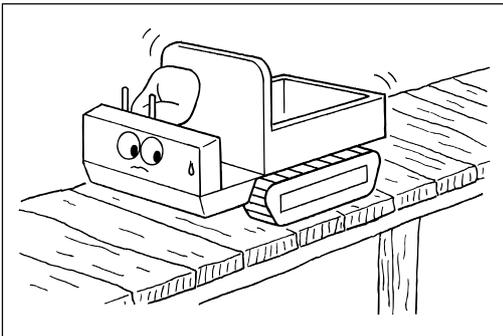
見通しの悪い場所や幅員の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。



積載時の心得

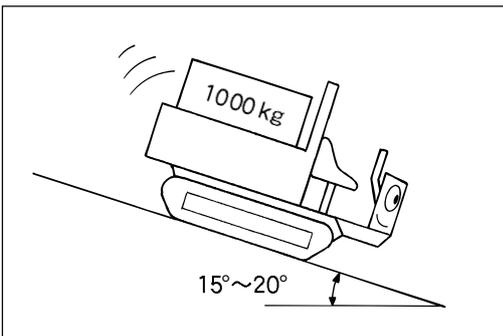
⚠ 過積載禁止

本製品の仕様で規定されている最大作業能力を超える積載はしないでください。



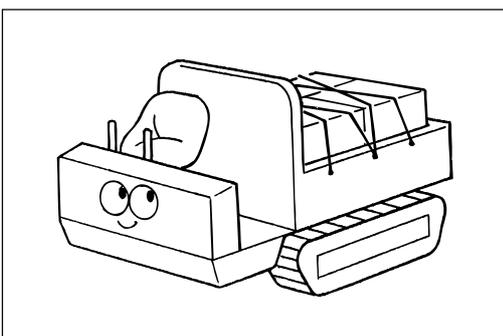
⚠ 制限重量に注意

木橋等を渡る時は、本製品の機械重量と積載量および運転者の体重の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



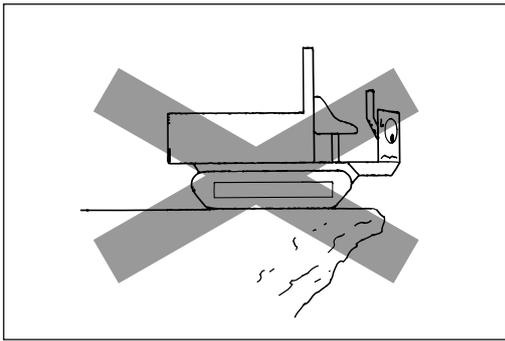
⚠ 傾斜地での積載量に注意

15°~20°の傾斜地では、積載量を1000kg以下にして走行してください。20°を超える急傾斜地では、本製品をなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態で運転をしてください。



⚠ 積み荷は正しく載せる

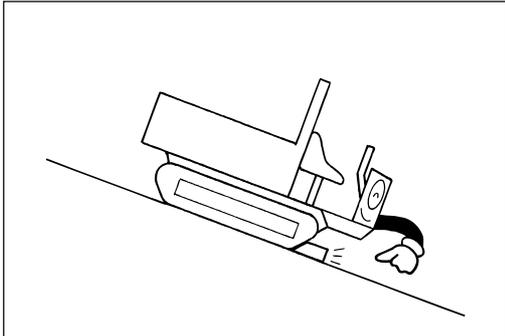
積み荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定するよう心掛けてください。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。



駐車時の心得

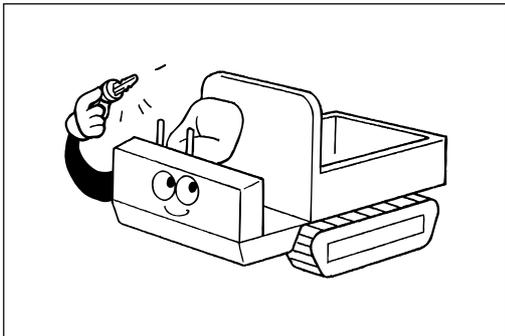
⚠ 危険な場所での駐停車禁止

駐停車の際は足場のよい平坦地に車体を止め、危険な場所での駐停車はしないでください。



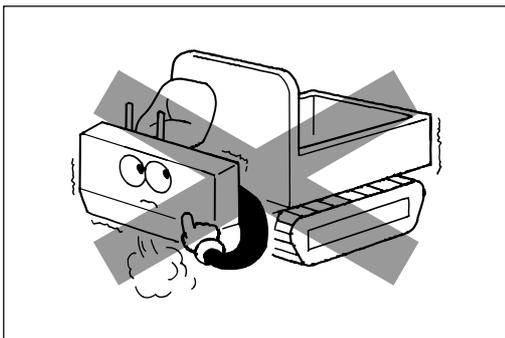
⚠ 坂道での輪止め励行

坂道での駐車は避けてください。やむなく坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実にかけ、輪止めをしてください。



⚠ 駐車時の安全確認

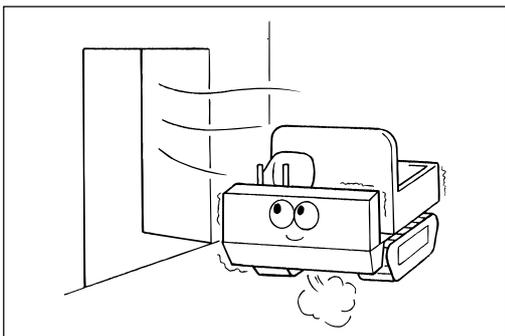
駐車時は、駐車ブレーキスイッチを「P」に入れて駐車ブレーキを必ずかけ、エンジン停止を励行してください。また、キーを忘れずに抜いてください。



整備時の心得

⚠ エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。必ずエンジンを停止してから整備をしてください。

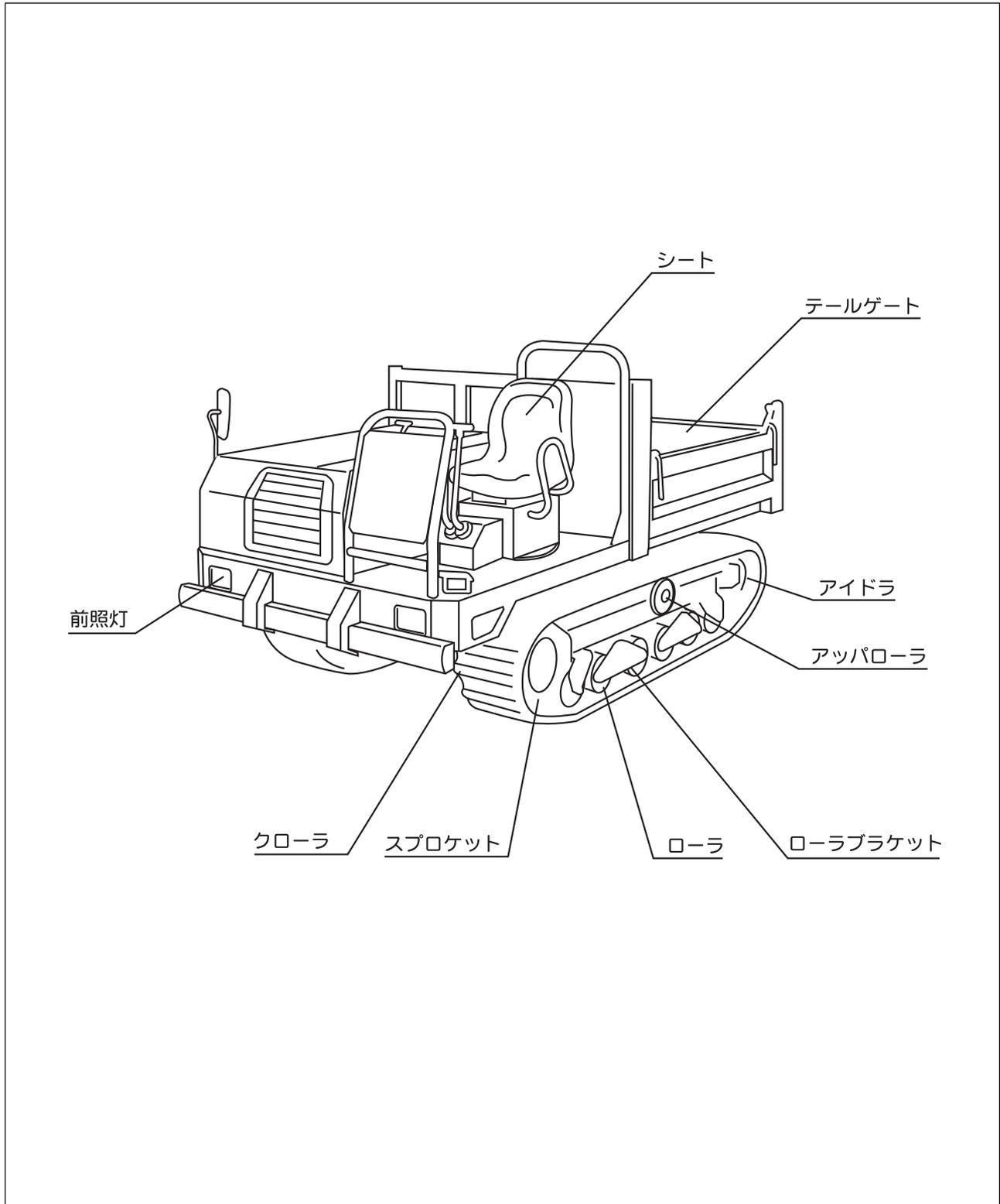


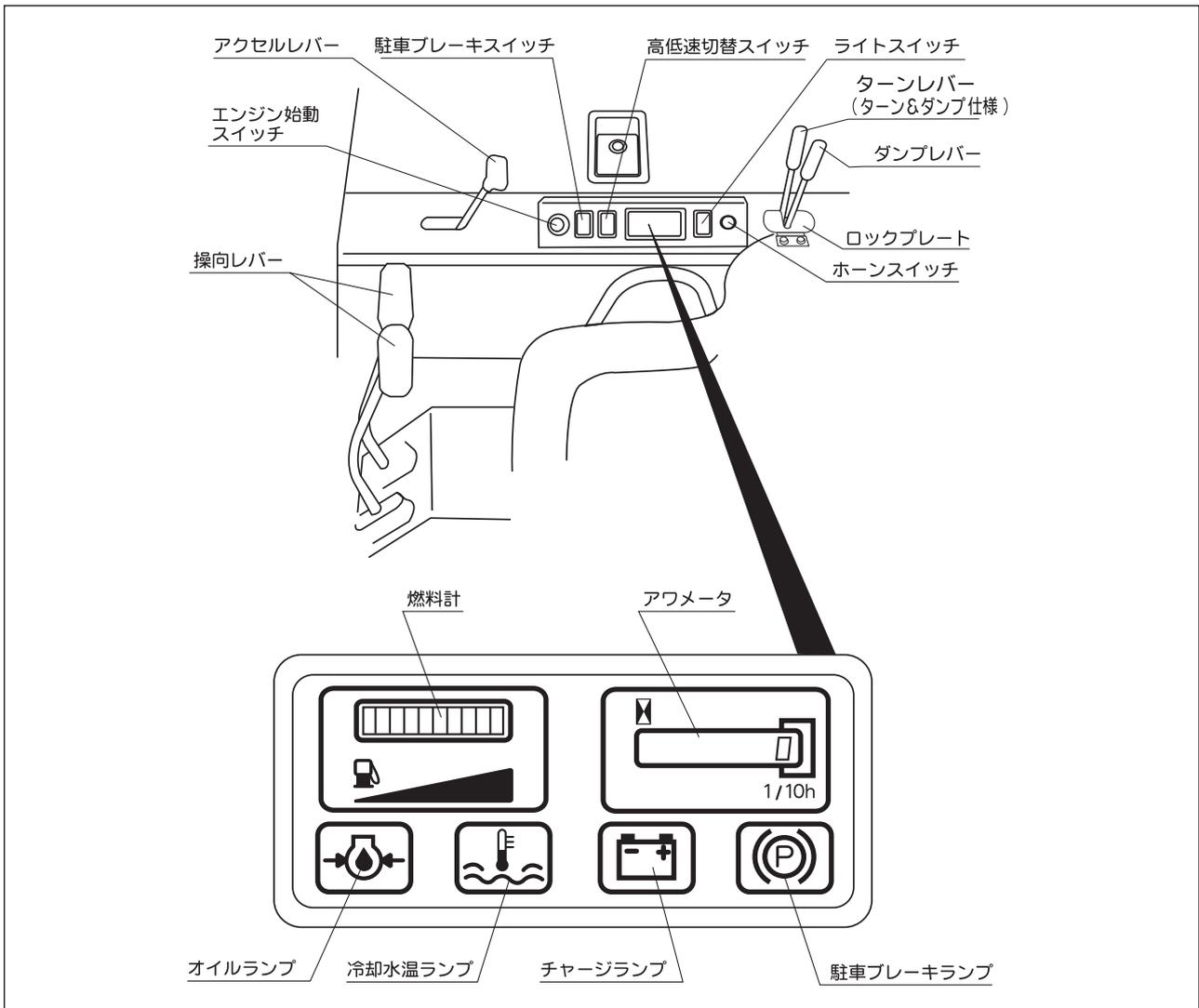
⚠ 換気に注意

室内でエンジンを運転させる時は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行ってください。

4. 各部の名称とはたらき

各部の名称





各部のはたらき

- アクセルレバー エンジン回転数の増減を行います。
- 操向レバー 車両の走行方向（前進または後進）の切換えおよび車両を旋回するときに使用します。
- ダンプレバー 荷台の「上昇」、「下降」を行う時に使用します。
- ロックプレート ダンプレバー、ターン&ダンプレバー（ターン&ダンプ仕様のみ）のロックに使用します。
- 高低速切替スイッチ 走行速度の切替え（「低速」または「高速」）に使用します。
- 駐車ブレーキスイッチ 車両を駐車させるときに使用します。（駐車ブレーキスイッチが「P」位置では、操向レバーを操作しても車両は動きません）
- ライトスイッチ スイッチを押すと前照灯が点灯します。
- ホーンスイッチ スイッチを押すとホーンが鳴ります。
- ターンレバー 荷台の回転を行う時に使用します。（ターン&ダンプ仕様のみ）

各部のはたらき

- エンジン始動スイッチ メインスイッチと兼用です。
キーを「 I 」の位置まで回すと、車両の電気回路が通電されます。キーをさらに「 Ⓞ 」まで回すと、スタータが起動します。キーを「 Ⓟ 」位置に回すと、グロープラグに通電されます。
- 冷却水温ランプ エンジン冷却水温が異常に上昇（オーバーヒート）すると点灯します。
- オイルランプ エンジンオイルの圧力が正常かどうかを示します。エンジン始動スイッチが「 I 」の位置で点灯し、エンジン始動後消灯していれば正常です。
- 駐車ブレーキランプ 駐車ブレーキスイッチが「 P（駐車）」の位置で点灯します。
- チャージランプ バッテリーの充電状態を示します。エンジン始動スイッチが「 I 」の位置で点灯し、エンジン始動後、消灯していれば正常です。
- 燃料計 燃料の残量を表示します。
- アワメータ 機械稼働時間の累計を0.1時間単位で示します。

5. 製品仕様

5.1 本製品の仕様

注 記

本製品の仕様を理解した上で、正しく本製品を使用してください。

名 称 ・ 型 式			S25A		
			一方ダンプ	ターン&ダンプ	
機 械 質 量	kg	2100	2350		
最 大 作 業 能 力	kN (kg)	24.5 (2500)			
機 械 寸 法	全 長	mm	3290	3380	
	全 幅	mm	1560	1550	
	全 高	mm	1685		
	タンブラ中心距離	mm	1960		
	クローラ中心距離	mm	1230		
	最低地上高	mm	295		
	荷台床面高さ	mm	770	910	
荷台寸法	荷箱内側寸法	長 さ	mm	1685	1750
		幅	mm	1420	1300
		高 さ	mm	370	420
	荷箱容積	平 積	m ³	0.89	0.90
		山 積	m ³	1.26	1.25
エ ン ジ ン	名 称		クボタ V2203		
	形 式		水冷4サイクル4気筒ディーゼル		
	シリンダ (内径×行程)	mm	87×92.4		
	総 排 気 量	cm ³ (cc)	2197 (2197)		
	定 格 出 力 *1	kW/min ⁻¹ (PS/rpm)	35.4/2800 (48.1/2800)		
	最 大 ト ル ク *1	N·m/min ⁻¹ (kg·m/rpm)	141.1/1600 (14.4/1600)		
	始 動 方 式		セルフスタータ式		
	使 用 燃 料		軽油		
	燃 料 消 費 率	g/kW·h (g/PS·h)	251 (185)		
	燃 料 タ ン ク 容 量	ℓ	45		
	潤 滑 油 容 量	ℓ	9.7		
	冷 却 水 量	ℓ	8.2		
バ ッ テ リ 形 式		100E41R			
バ ッ テ リ 容 量	V/AH	12/80			

名 称 ・ 型 式			S25A		
			一方ダンプ	ターン&ダンプ	
走行性能	走行速度	変速	HST (2段切替)		
		高速	km/h	0~11	
		低速	km/h	0~6	
	最小回転半径		m	2.0	
	登坂能力		度	30	
HSTオイル容量		ℓ	36		
動力伝達装置	主変速形式		HST (2速モータ)		
	操向装置形式		2ポンプ2モータ		
	ブレーキ形式		油圧式		
	クローラ		320×58×90		
ダンプ装置	ダンプ方式		油圧ダンプ		
	ダンプ形式		一方ダンプ		
	油圧ポンプ	形式		ギヤポンプ	
		最高回転数		rpm	2800 (2800)
		最大吐出量		ℓ/min	31
		リリーフ設定圧		MPa(kg/cm ²)	15.7 (160) 11.8(120)
	シリンダ (内径×行程)		mm	80×407	
	性能	最大上昇角度		度	60 58
		上昇時間		sec	約4.0
		下降時間		sec	約3.0
油圧作動油量		ℓ	HSTオイル兼用		
回転装置	回転方式		—	油圧 (ツインシリンダ)	
	最大回転角度		度	— 右90 ~ 左90	
	回転時間		sec	— 約6.0 (90°)	
	シリンダ		mm	— 60×250	

*1 ネット(ファン無し)

※この仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

5.2 工具袋明細

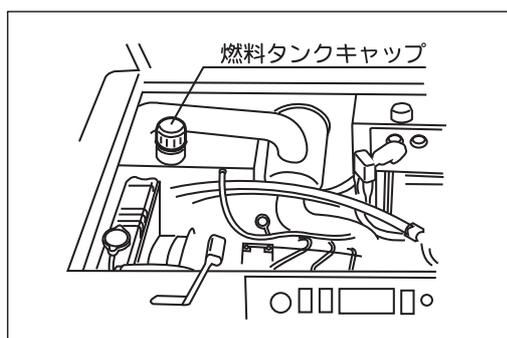
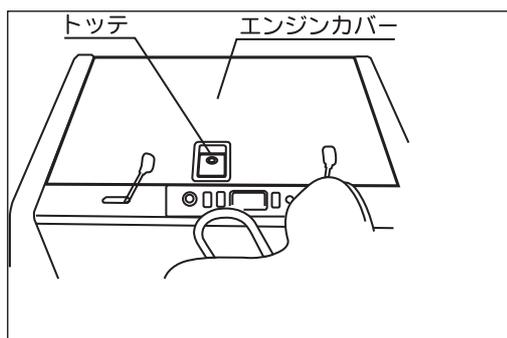
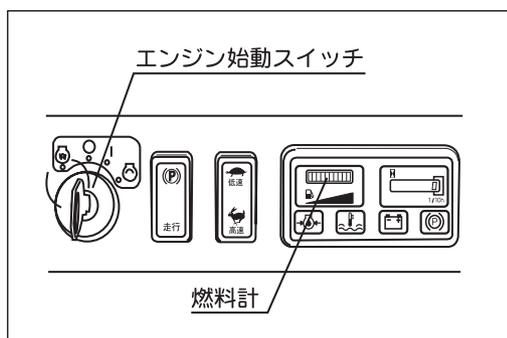
No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書 (本書) *本書に部品明細 (リコメントパーツ) は記載しています。	1	
2	エンジン取扱説明書	1	

6. 運転と操作

- 本章を読む前に第3章「安全運転・作業のための心得」(7ページ～10ページ)を必ずお読み下さい。
- 運転および操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対にしないでください。

6.1 運転前の準備

6.1.1 燃料の給油



⚠ 危険

- 給油の際は火気（タバコの火など）を絶対に燃料およびエンジンに近付けないでください。引火の原因となります。
- 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- 給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。こぼれた際には速やかにふき取ってください。

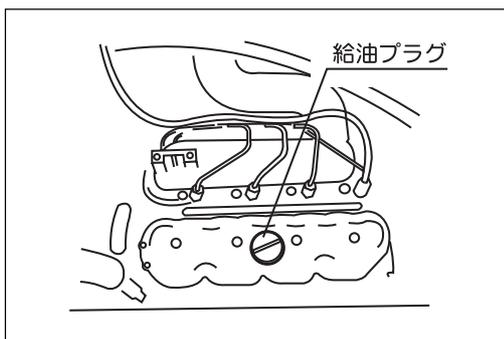
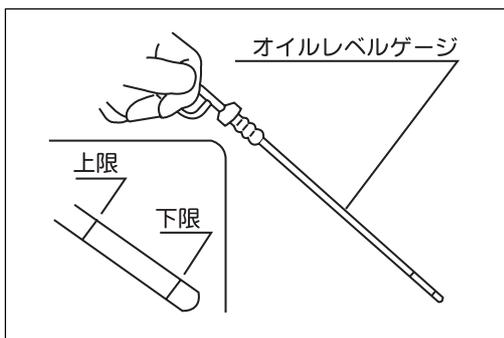
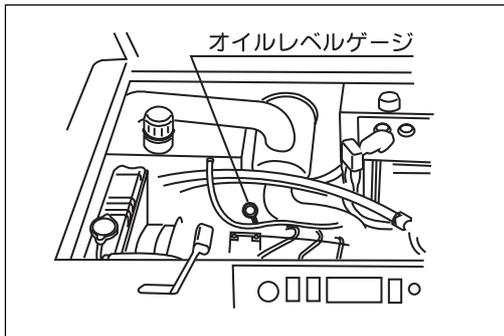
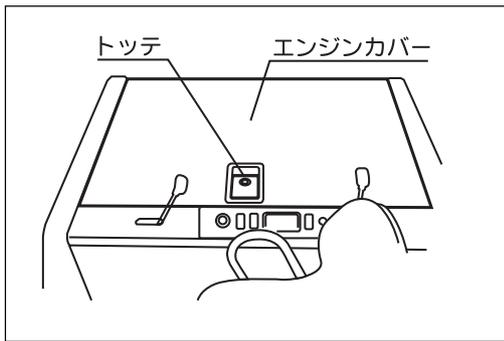
点検

1. エンジン始動スイッチを「 I 」にして、燃料計を目視点検し、燃料が不足していないか点検します。燃料が不足している場合は補給します。

補給

1. エンジンカバーを開けます。
2. 燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。

使用燃料：ディーゼル軽油
燃料タンク容量：45ℓ



6.1.2 エンジンオイル量の点検と補給

1. エンジンカバーを開けます。
2. オイルレベルゲージを引き抜きます。

3. エンジンオイル量を点検します。

エンジンオイル量：

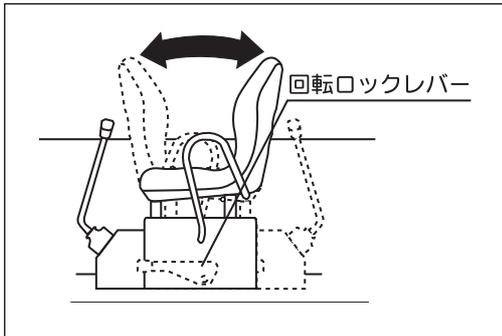
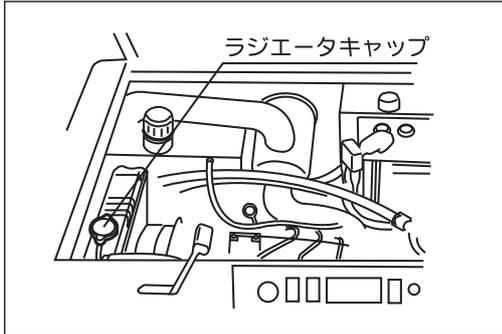
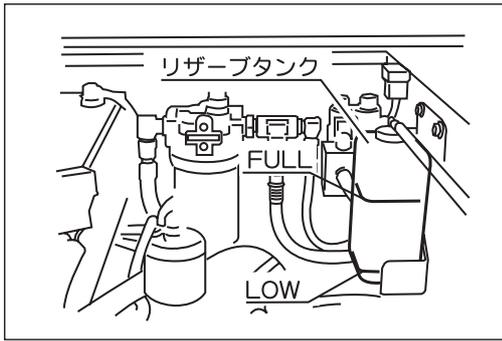
オイルレベルゲージの「上限」と「下限」の間
(上限以上は入れないでください。)

参考：

オイルレベルゲージの上限まで入れた場合、
9.7ℓ入ります。

4. エンジンオイルが規定量にない場合は、給油プラグを取外し、指定のオイルを補給します。

使用オイル：☞31ページ



6.1.3 エンジン冷却水の点検と補給

1. エンジンカバーを開けます。(☞16ページ)
2. エンジン冷却水量を目視点検し「FULL」と「LOW」の間にあることを確認してください。不足している場合は補給します。(☞37ページ)

▲ 注意

運転中および停止直後、ラジエータキャップを開けると、熱湯が噴出してやけどすることがありますので、キャップは冷却水が冷めてから（エンジン停止後約30分程度）開けてください。

6.1.4 シートの位置調整

1. シートの回転は、回転ロックレバーを持ち上げた状態で行います。

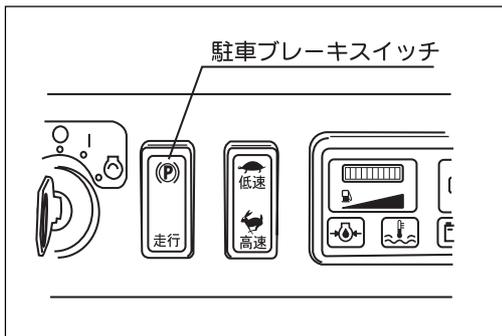
注 記

- シートを回転させた場合、操向レバー操作はシートの向き方向が前進となります。

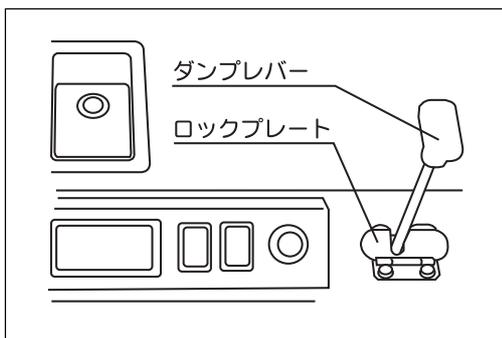
6.2 始動のしかた

⚠ 危険

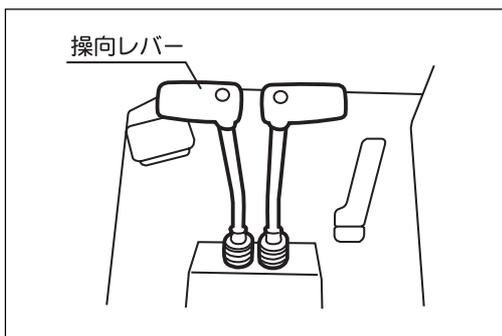
エンジンの始動は、周囲に可燃物のないことを確認し、必ず換気のよい場所で行ってください。



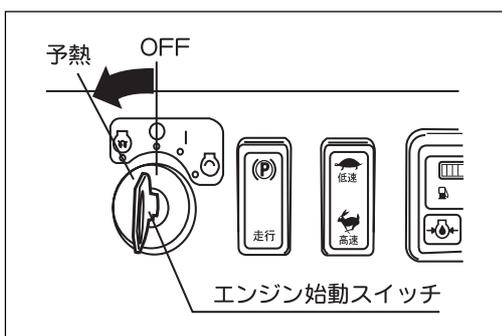
1. 駐車ブレーキスイッチの「P（駐車）」を押した状態にあることを確認します。



2. ダンプレバーが「中立」位置でロックした状態にあることを確認します。



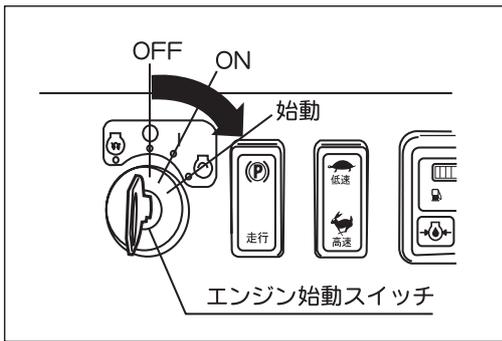
3. 操向レバーが「中立」の位置にあることを確認します。



4. エンジンキーを「（予熱）」の位置まで回し、十分予熱します。

注 記

- 常温始動で約10秒、寒冷時（外気温が -5°C 以下のとき）の始動時には約20～30秒間予熱してください。
- エンジンが暖まっている場合は「予熱」する必要はありません。



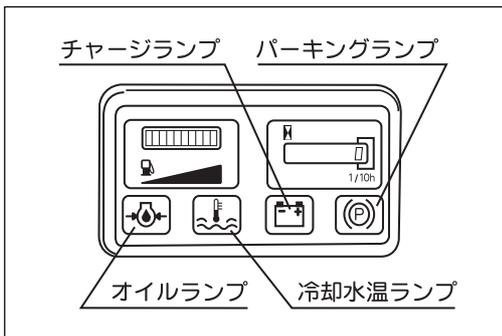
5. エンジンキーを「 (始動)」の位置まで回してエンジンを始動させます。(始動後はキーから手をすぐに離してください。キーは自動的に「 (ON)」の位置に戻ります。)

注 記

- 始動しない場合、15秒以上連続してセルモータを回さないでください。キーを運転位置に戻し、30秒位休んでから再始動するようにしてください。
- 頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したら、しばらく連続運転して、バッテリーを充電するようにしてください。

▲ 注 意

エンジン回転中は、エンジン始動スイッチを「 始動」の位置に絶対に回さないでください。セルモータの破損、エンジンの故障の原因になります。



6. 各ウォーニングランプ（オイルランプ、冷却水温およびチャージランプ）が消灯していることを確認します。

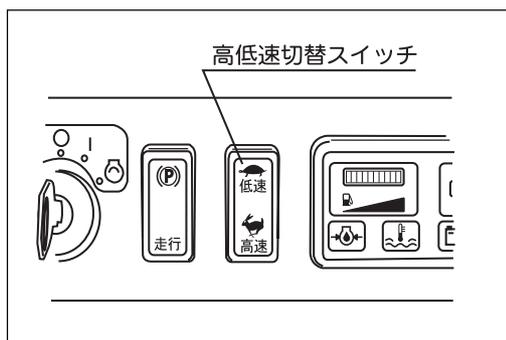
注 記

これらのウォーニングランプは、エンジンを始動させると、正常な場合は消灯します。エンジンを始動させた後も点灯したままの場合は、第9章「不具合発生時の処置」を参照して、適切な処置をしてください。(☞53ページ)

7. 約5分間、無負荷で暖機運転をします。

注 記

- 冬期または寒冷地では、十分に暖機運転を行ってください。エンジンが十分暖まらないうちに運転すると、エンジンや油圧機器の寿命を短くすることになります。
- 購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、ならし運転期間として、過負荷をかけないように運転してください。

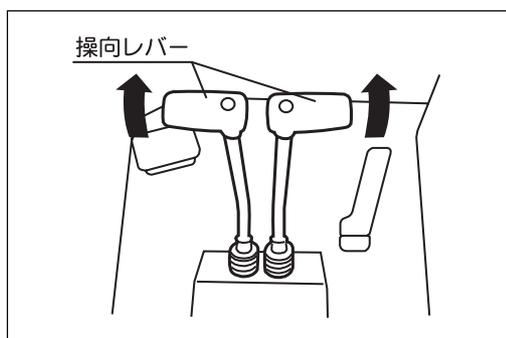


6.3 運転のしかた

1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. 駐車ブレーキスイッチを「走行」側に切り替えます。
3. 高低速切替スイッチを「 (低速)」または「 (高速)」を押します。(各変速位置での走行スピードについては、第5章の「製品仕様」を参照してください。
(15ページ)
4. アクセルレバーを「 (高速)」側に動かし(又はアクセルペダルを踏み込み)、エンジン回転数を上げておきます。

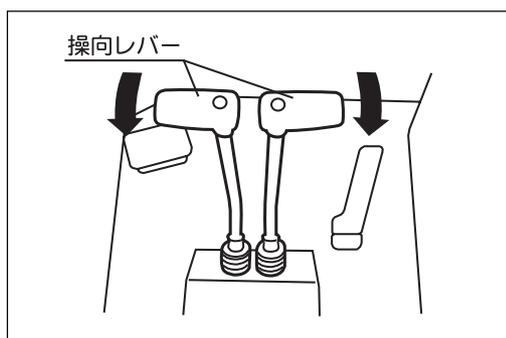
注 記

- シートを回転させた場合、操向レバー操作はシートの向き方向が前進となります。



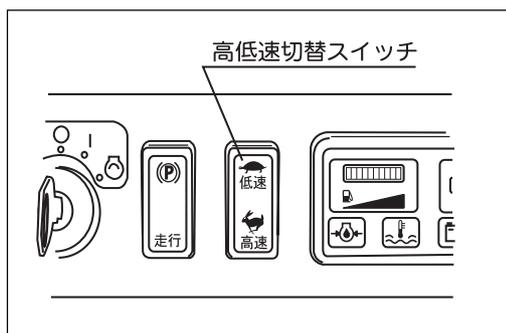
(前進する場合)

5. 両方の操向レバーを徐々に前方に倒し、車体をゆっくり前進させます。
車両速度は操向レバーを倒す力(量)により任意に調節することができます。



(後進する場合)

6. 両方の操向レバーを徐々に後方に倒し、車体をゆっくり後進させます。
車両速度は操向レバーを倒す力(量)により任意に調節することができます。



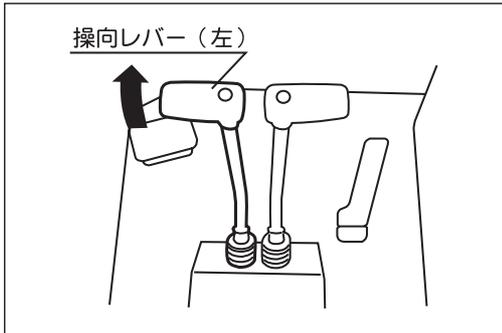
(変速切換をする場合)

7. 高低速切替スイッチを「 (低速)」または「 (高速)」の希望の位置に入れて高/低速の切換えをします。(走行中でも車両を停止することなく切換えができます)

■ 旋回をする場合

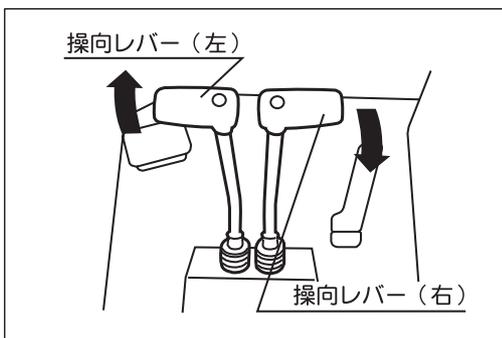
⚠ 危険

- スピードを上げて急旋回をすると、運転者が振り落とされたり、車両が転倒するおそれがあり、危険です。
- 旋回時は周囲の安全を必ず確認してください。



右に旋回する場合

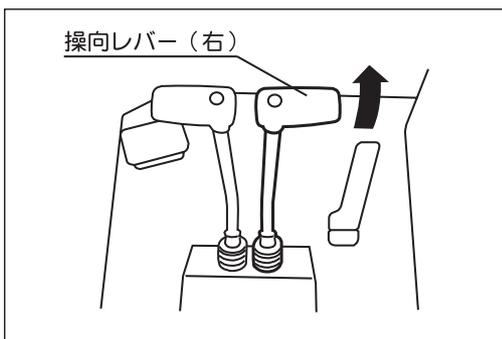
8. 左側の操向レバーを徐々に前方に倒します。



右に急旋回するときは、左側の操向レバーを前方に、右側の操向レバーを後方に倒します。

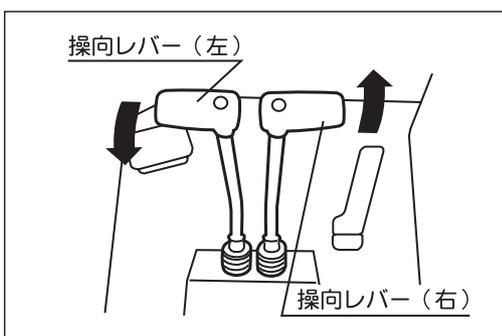
⚠ 危険

スピードを上げて急旋回すると、運転者が振り落とされたり、車両が転倒するおそれがあり、危険です。



左に旋回する場合

9. 右側の操向レバーを徐々に前方に倒します。



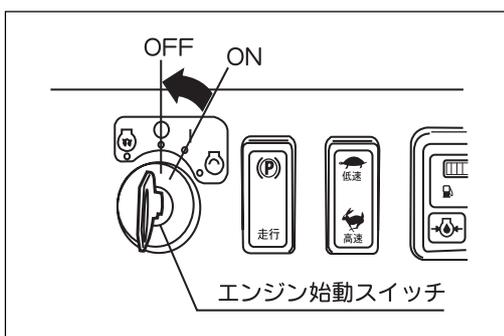
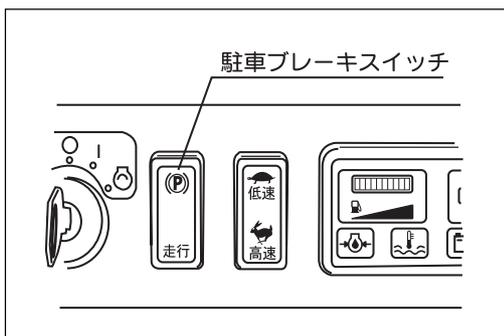
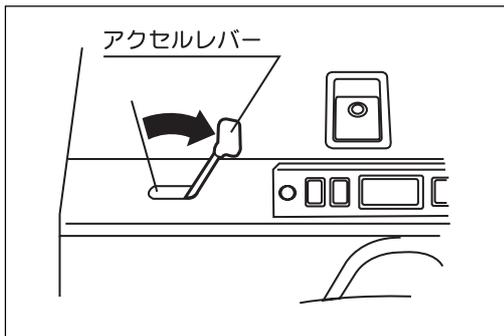
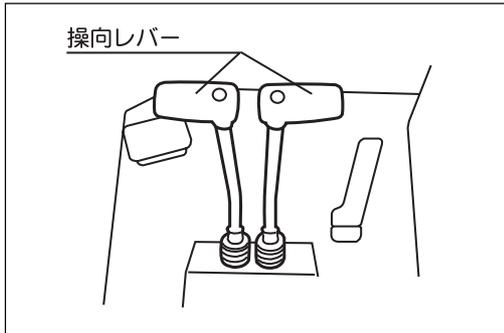
左に急旋回するときは、右側の操向レバーを前方に、左側の操向レバーを後方に倒します。

⚠ 危険

スピードを上げて急旋回すると、運転者が振り落とされたり、車両が転倒するおそれがあり、危険です。

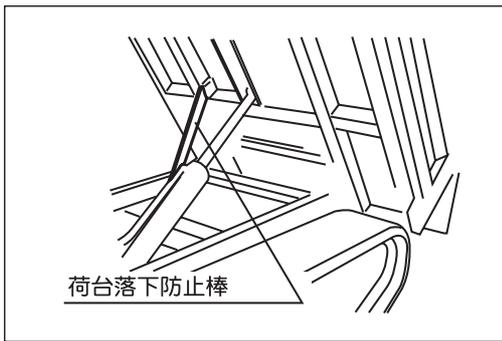
注 記

- 駐車ブレーキスイッチが「P（駐車）」の状態では、操向レバーを操作しても車体は動きません。
- 操向レバーは、必ず中立位置で手を離してください。
- 走行中、駐車ブレーキスイッチの「P（駐車）」を押したり、エンジンキーを「○（OFF）」の位置に回したりしないでください。車体バランスがくずれ、前のめりになることがあります。



6.4 停止のしかた

1. 両方の操向レバーを「中立」の位置に戻し、車体を停止させます。
2. アクセルレバーを「（低速）」の位置にし、エンジンの回転数を落とします。
3. 駐車ブレーキスイッチの「P（駐車）」を押します。
4. エンジンキーを「○（OFF）」の位置に回し、キーを抜き取ります。



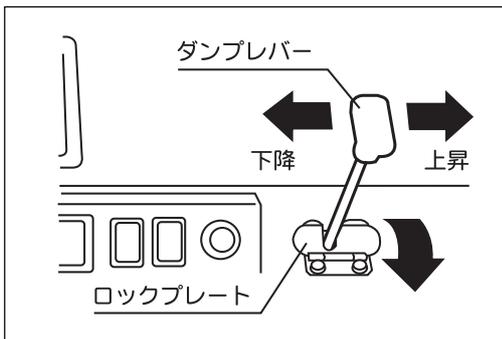
6.5 ダンプ操作

⚠ 危険

- 荷台を上昇したまま荷台下等の点検を行なう場合は、危険防止のため、本体に備え付けの荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えてください。また同時に、ダンプレバーをロックプレートにてロックしてください。
- ダンプ操作時は周囲の安全確認を必ず行ってください。

⚠ 警告

急傾斜地でのダンプ操作は、車体が不安定になり、非常に危険ですので、お避けください。やむを得ず坂道でのダンプ操作を行なう場合は、走行部にりん木等を敷き、車体を水平にしてご使用ください。



(荷台を上昇させる場合)

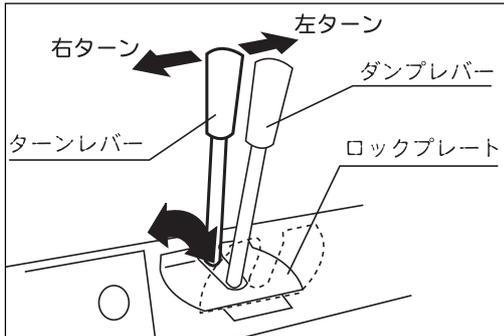
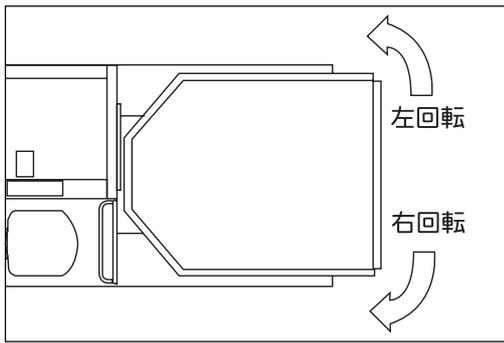
1. エンジンを始動し、アクセルレバーを「 (高速)」の位置にして、エンジン回転数を上昇させます。
2. ダンプレバーのロックプレートを解除します。
3. ダンプレバーを「 (上昇)」の位置に徐々に倒します。
4. 荷台が上限まで上がるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。
5. ダンプ操作終了後は、ロックプレートにてレバーをロックします。

(荷台を下降させる場合)

⚠ 注意

荷物を積載したまま荷台を下降させる場合、車体に衝撃を与えないよう、エンジン回転数を低くして荷台をゆっくり下げてください。

1. ダンプレバーを「 下降」の位置に徐々に倒します。
2. 荷台が下限まで下がるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。
3. ダンプ操作終了後は、ロックプレートにてレバーをロックします。



6.6 ターン操作（ターン&ダンプ仕様車）

（荷台を左回転させる場合）

1. ロックプレートを解除します。
2. ターンレバーを左ターンの方向に倒します。

最大回転角：90°

3. 最大回転角まで回転させるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ターンレバーをすばやく「●（中立）」の位置に戻します。
4. ターン操作終了後は、ロックプレートにてレバーをロックします。

（荷台を右回転させる場合）

1. ロックプレートを解除します。
2. ターンレバーを右ターンの方向に倒します。

最大回転角：90°

3. 最大回転角まで回転させるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ターンレバーをすばやく「●（中立）」の位置に戻します。
4. ターン操作終了後は、ロックプレートにてレバーをロックします。

7. 保守（お手入れ）

7.1 定期点検表

点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。製品の正常な機能を維持し、いつも安全な状態で運転または作業をするために、下表を参考に点検を行ってください。
 年次点検は1年に1回、月例点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行なうようにしてください。

注 記

下表の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については、販売店（当社センター）へ依頼してください。

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考		
		始業	月例	年次			
原 本 動 機	始動性	● エンジンのかかり具合および異音の有無を調べる。	始動が容易で、異音がないこと。	○	○	○	
		● グロープラグの作動の適否を調べる。	正常に作動すること。	○	○	○	
	回転の状態	● アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数を調べる。また、回転が円滑に続くか調べる。	正規の回転数であること。回転が円滑に続くこと。		○	○	販売店へ点検を依頼してください。
		● エンジンを加速した時、アクセルレバーの引っ掛かり、エンジン停止およびノッキングの有無を調べる。	引っ掛かり、エンジン停止またはノッキングがないこと。	○	○	○	
	排気の状態	● エンジンを十分に暖機した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音の異常の有無を調べる。	排気色および排気音が正常であること。	○	○	○	
		● 排気管、マフラ等からのガス漏れの有無を調べる。	ガス漏れの無いこと。		○	○	
	エア クリーナ	● ケースの亀裂、変形およびふた部、接続管の緩みの有無を調べる。	ケースの亀裂 変形またはふた、接続管に緩みがないこと。		○	○	
		● エレメントの汚れおよび損傷の有無を調べる。	著しい汚れまたは損傷がないこと。		○	○	清掃/交換：☞40ページ
	締付け	● シリンダヘッドおよびマニホールドの締付け部のボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。 *これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。	緩みがないこと。			○	

項 目		点 検 内 容	点検時期			備 考		
			始 業	月 例	年 次			
原 動 機	本 体	圧縮圧力	<ul style="list-style-type: none"> 圧縮圧力を調べる。 *アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。 	正規の圧縮圧力であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		エンジンマウント	<ul style="list-style-type: none"> エンジンベースの亀裂および変形の有無を調べる。 	亀裂または変形がないこと。		○	○	
	<ul style="list-style-type: none"> 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。 		緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○		
	潤滑装置	<ul style="list-style-type: none"> 油量および油の汚れを調べる。 	油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検/交換：☞32ページ	
		<ul style="list-style-type: none"> ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等からの油漏れの有無を調べる。 	著しい油漏れがないこと。	○	○	○		
		<ul style="list-style-type: none"> オイルフィルタの汚れおよび損傷の有無を調べる。 	著しい汚れまたは損傷がないこと。			○	交換：☞40ページ	
	燃料装置	<ul style="list-style-type: none"> 燃料タンク、噴射ポンプ、ホース、パイプ等からの燃料漏れの有無を調べる。 	燃料漏れのないこと。	○	○	○		
		<ul style="list-style-type: none"> 燃料ホースの損傷および劣化の有無を調べる。 	損傷または劣化がないこと。	○	○	○		
		<ul style="list-style-type: none"> 燃料フィルタカートリッジの汚れおよび詰まりの有無を調べる。 	著しい汚れまたは詰まりがないこと。		○	○	清掃：☞41ページ	
		<ul style="list-style-type: none"> 噴射ノズルの噴射圧力および噴霧状態の異常の有無を調べる。 *アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければ、この検査を省略してもよい。 	正規の噴射圧力であり、噴霧が正常であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。	
		<ul style="list-style-type: none"> 燃料タンク内の水および沈殿物の有無を調べる。 	水および沈殿物がないこと。		○	○	清掃：☞41ページ	
	冷却装置	<ul style="list-style-type: none"> 冷却水の量および汚れの有無を調べる。 	水量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検/補給：☞37ページ	
		<ul style="list-style-type: none"> ラジエータ、エンジン本体、ウォーターポンプ、ホース等からの水漏れの有無およびラジエータフィンが目詰まりの有無を調べる。 	水漏れまたは目詰まりがないこと。	○	○	○		
		<ul style="list-style-type: none"> ホースの損傷および劣化の有無を調べる。 	損傷または劣化がないこと。	○	○	○		
<ul style="list-style-type: none"> ラジエータキャップのバルブ機能の適否を調べる。 		正常に機能すること。			○			
<ul style="list-style-type: none"> ラジエータキャップのバルブシート面の損傷の有無を調べる。 		損傷がないこと。			○			
<ul style="list-style-type: none"> ファンベルトの張りを調べる。 		基準値以内であること。			○	点検/調整：☞43ページ		
<ul style="list-style-type: none"> ベルトの摩耗および損傷の有無を調べる。 		著しい摩耗または損傷がないこと。			○			

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考			
		始 業	月 例	年 次				
原	冷 却 装 置	● 冷却ファン、カバー、ダクト等の亀裂、損傷および変形の有無を調べる。	亀裂、損傷または著しい変形がないこと。			○		
		● 冷却ファン、カバー等の各取付けボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。	緩みのないこと。			○		
動	電 気 装 置	充電装置	● 電流計により機能の異常の有無を調べる。	正常に作動すること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		バッテリー	● 電解液の量が規定の範囲にあるか調べる。	規定範囲にあること。		○	○	点検/補給：☞38ページ
機 置	配 線	● 端子部の緩みおよび腐食の有無を調べる。	緩みまたは著しい腐食がないこと。		○	○		
		● 接続部の緩みの有無を調べる。	緩みがないこと。		○	○		
	HSTポンプ	● 配線の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。		○	○		
		● 操作レバーを前進、後進および旋回状態にして走行し、作動状態、異音および異常発熱の有無を調べる。	正常に作動し、異音または異常発熱がないこと。		○	○	○	
動 力 伝 達 装 置		● 作動油タンク内の油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○	点検/交換：☞34ページ	
		● 油の汚れを調べる。	著しい汚れがないこと。		○	○	点検/交換：☞34ページ	
	HSTポンプ	● 作動油タンク周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。			○	○	
		● 亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	亀裂、変形または著しい摩耗がないこと。		○	○	○	
走	スプロケット アイドラ ローラ アッパーローラ	● 走行して軸部の異音および異常発熱の有無を調べる。	異音または異常発熱がないこと。		○	○	○	
		● 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。		○	○	○	
行	スプロケット アイドラ ローラ アッパーローラ	● 軸部周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。		○	○	○	
		● 走行し、地盤の凹凸にしたがって、ローラブラケットが円滑に首振り動作を行うか調べる。	円滑に作動すること。			○	○	
装	クローラ	● スチールコードの切断および損傷の有無を調べる。	切断または著しい損傷がないこと。		○	○	○	
		● ゴムの欠け、劣化および摩耗の有無を調べる。	著しい欠け、劣化または摩耗がないこと。		○	○	○	
置	クローラ	● 芯金の脱落および折れの有無を調べる。	芯金の脱落がないこと。		○	○	○	
		● クローラの張り具合を調べる。	緩みまたは張り過ぎがないこと。		○	○	○	調整：☞45ページ
	履帯調整装置	● 調整装置のシリンダ内にグリースを注入し、装置の作動具合を調べる。	正常に作動すること。			○	○	

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考		
		始 業	月 例	年 次			
走行装置	トラックフレーム	<ul style="list-style-type: none"> 亀裂、変形、損傷および摺動部の摩耗の有無を調べる。亀裂が疑わしい場合は探傷器等で調べる。 	亀裂、変形、損傷または著しい摩耗がないこと。		○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> 各取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。 	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
制動装置	駐車ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> 駐車ブレーキスイッチを「P」の位置にし、機械を無負荷状態で1/5勾配の床面で停止させたとき、保持できるかを調べる。 	効き具合が適正であること。	○	○	○	
油	油圧ポンプ	<ul style="list-style-type: none"> パイプおよびホースとの継手部ならびにシール部からの油漏れの有無を調べる。 	油漏れがないこと。	○	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> 油圧ポンプを作動させ、無負荷および負荷状態における異常振動、異音および異常発熱の有無を調べる。 	異常振動、異音または異常発熱がないこと。		○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> 油圧ポンプに負荷をかけて負荷時の吐出量および吐出圧力を調べる。ただし、上記項目の異常振動、異音および異常発熱の検査で異常がなければ、この検査は省略してもよい。 	メーカーの指定する基準値内であること。			○	
圧	配管 (ホース類、 高圧パイプ)	<ul style="list-style-type: none"> 配管の亀裂、損傷、老化およびねじれの有無を調べる。 	亀裂、損傷、老化またはねじれがないこと。	○	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> 配管継手部からの油漏れの有無を調べる。 	油漏れがないこと。	○	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> 配管の取付け状態の適否ならびにボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。 	取付け状態が適正で、ボルトおよびナットの緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
装	油圧シリンダ	<ul style="list-style-type: none"> 作動状態を調べる。 	円滑に作動すること。	○	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> シリンダを数回伸縮作動させた後、シール部等からの油漏れの有無を調べる。 	油漏れがないこと。		○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> シリンダに負荷をかけて静止させ、シリンダの伸縮量を調べる。 	伸縮量がメーカーの指定する基準値内であること。			○	
		<ul style="list-style-type: none"> シリンダチューブおよびロッドの打こん、亀裂、曲がりおよび擦り傷の有無を調べる。 	打こん、亀裂、曲がりおよび擦り傷がないこと。		○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> シリンダ取付けピンの摩耗、損傷の有無を調べる。 	過度の摩耗、損傷がないこと。	○	○	○	
置	コントロールバルブ	<ul style="list-style-type: none"> スプールを動かし、円滑に作動するか調べる。 	円滑に作動すること。	○	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> 取付け状態の適否を調べる。 	取付け状態が適正であること。		○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> 油圧シリンダを作動させる等して負荷をかけ、作動の適否を調べる。 	油圧シリンダが正常に動くか、または確実に停止すること。	○	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> 本体、配管および継手部からの油漏れの有無を調べる。 	油漏れがないこと。	○	○	○	

項目	点検内容	点検時期			備考	
		始業	月例	年次		
荷役装置	荷台 (テールゲートおよびサイドゲートを含む)	● 荷台の上昇および下降ならびにテールゲートの開閉が円滑に行えるかを調べる。	○	○	○	
		● ダンプ時にテールゲートが自動的に解放し、下降時にロックするかを調べる。	○	○	○	
		● 各部の亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	○	○	○	
		● 取付けボルトの緩みおよび脱落の有無を調べる。	○	○	○	
		● 荷台を上下させてフレームと荷台との取付けピンおよびダンプシリンダ取付けピン等のガタを調べる。		○	○	
車体	車枠 および 車	● 亀裂、変形、腐食の有無を調べる。		○	○	
		● 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	○	○	○	
	カバ－	● 亀裂、変形、腐食の有無を調べる。		○	○	
● カバ－の開閉状態ならびにロックの異常の有無を調べる。			○	○		
安全	座席	● 座席調整およびロック装置の作動の適否を調べる。		○	○	
		● 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	○	○	○	
全装置等	表示板 (マーク)	● 構造規格に規定された表示板その他の注意・指示銘板等が損傷なく取付けられているかを調べる。		○	○	
		● 各スイッチを操作して作動の適否を調べる。	○	○	○	
	灯火装置、警音器、方向指示器等	● 灯火装置のレンズの破損および水等の侵入の有無を調べる。	○	○	○	
		● エンジンを作動させ、各計器の作動状態を調べる。	○	○	○	
	給油脂	● 各部の給油脂状態を調べる。		○	○	給脂：☞35ページ
荷台降下防止棒	● 荷台を上げて、装置の取付け状態を調べる。	○	○	○		
	● 曲がりおよび変形の有無を調べる。	○	○	○		
	● 荷台降下防止棒、ストップ等の取付け部の亀裂および損傷の有無を調べる。亀裂が疑わしい場合は探傷器等で調べる。		○	○		
総合テスト	● 走行および荷役装置の操作を行い、機能を調べる。			○	各装置が正常に作動し、異音、異常振動または異常発熱がないこと。	

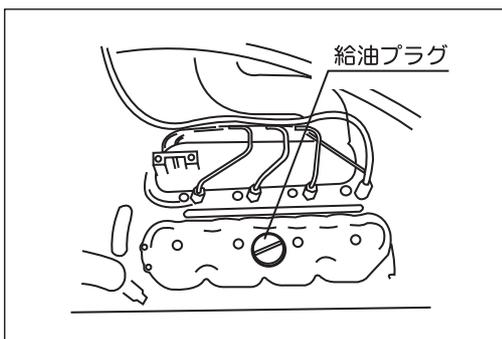
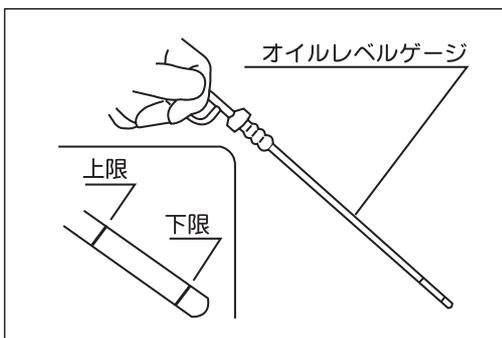
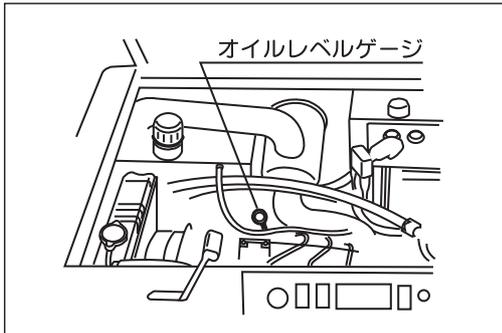
7.2 給油、給脂、注油、給水一覧表

項目	補給時期	推奨品	容量	参照ページ
燃料	随時	ディーゼル軽油	45ℓ	☞16ページ
エンジンオイル	補給：毎日点検し、 不足時に補給 交換： 初回：50時間 2回目以降：200時間毎	API分類 CD級以上 SAE分類 10W-30	9.7ℓ	☞32ページ
HSTオイル (油圧作動油兼用)	交換： 初回：500時間 2回目以降：1000時間毎	高粘度指数油圧作動油 VG46 又はエンジンオイル API分類CD級以上 SAE分類 10W-30 ※寒冷地 (-15℃以下) で使用する場合は 耐摩耗性作動油VG32を使用してください。	36ℓ	☞35ページ
走行モータ潤滑油	交換： 初回：200時間 2回目以降：1000時間毎	ギヤオイル API分類 GL4 SAE分類 #90	0.6ℓ	☞35ページ
シリンダピン、 ローラ支点軸等	100 時間毎	リチウム万能グリース (調度 2 号相当)	—	☞35ページ
エンジン冷却水	補給：毎日点検し、不足 時に補給 交換：2年毎	不凍液混合水	7.2ℓ	☞37ページ
バッテリー液	50時間毎に点検し、不足 時に補給	蒸留水	—	☞38ページ

7.3 給油

注 記

給油がおろそかになると、回転が円滑に行われないばかりでなく、故障の原因となり機械の寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。



7.3.1 エンジンオイル

点検

1. エンジンカバーを開けます。
2. オイルレベルゲージを引き抜きます。
3. エンジンオイル量および汚れ、粘度を目視点検し、下記レベルでない場合および汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は、エンジンオイルを補給または交換します。

エンジンオイル量：
レベルゲージの「上限」と「下限」の間

補給

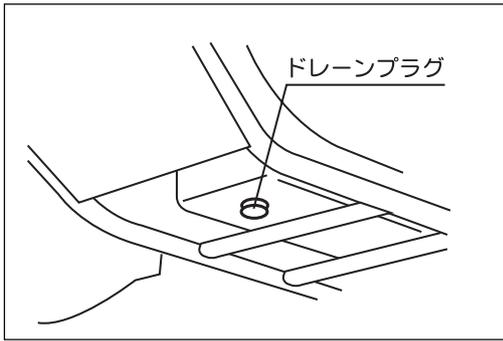
1. 給油プラグを取外します。

▲ 注意

エンジン高温時には火傷をするおそれがあるため、エンジン本体が冷えてから給油プラグを取外してください。

2. 給油口より指定のオイルを補給します。

使用オイル： 31ページ

**交換（エンジンオイル）**

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. エンジンを暖機運転し、オイルを暖めます。
3. エンジンを停止します。
4. エンジン底部にあるオールドレインプラグを取外し、クランクケース内のオイルを排出します。

▲ 注 意

オイル高温時には火傷のおそれがあります。

注 記

廃油は適切な処理をしてください。

5. オールドレインプラグを取付けます。
6. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。
(前記「補給」を参照)

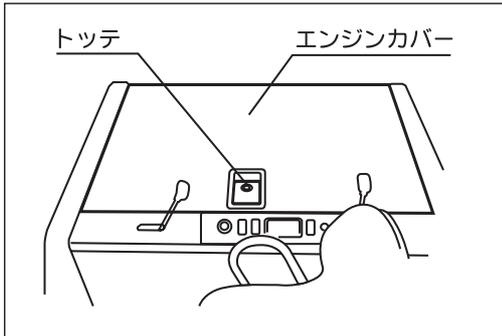
7.3.2 HSTオイル（油圧作動油）

注 記

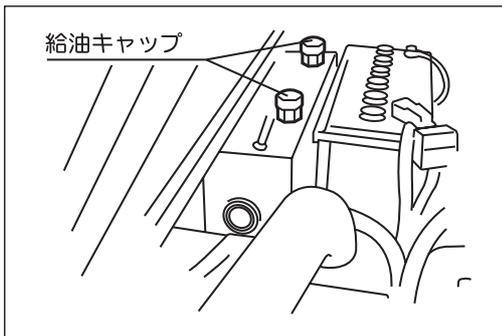
- オイルが減るとホースおよびシリンダ内に空気が入り、油圧機器の作動が悪くなりますので、定期的にオイルの点検を行い、不足している場合は補給してください。
- HSTオイルは油圧作動油と兼用です。補給は油圧作動油タンク側で行います。

点検

1. エンジンカバーを開けます。



2. 作動油量ゲージにてオイル量を目視点検し、オイルが不足している場合は、オイルを補給します。



補給

1. 作動油タンクの給油キャップを取外します。
2. 給油口より指定のオイルを補給します。

使用オイル： 31ページ

3. 給油キャップを取付けます。
4. エンジンを始動し、オイルを潤滑させます。
5. 作動油量ゲージにて規定量入っているか確認します。

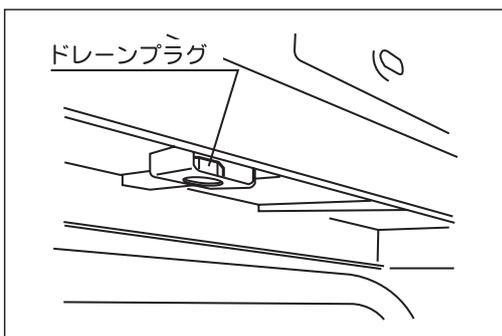
交換

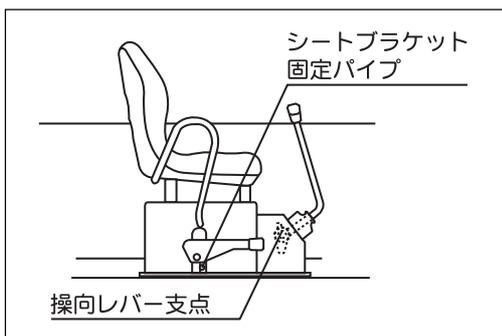
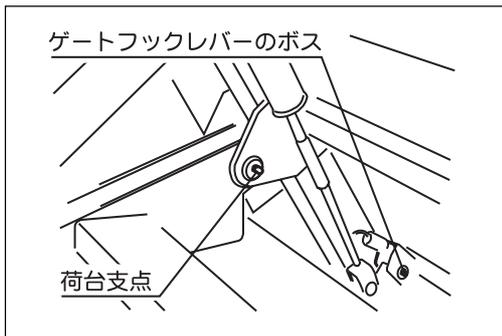
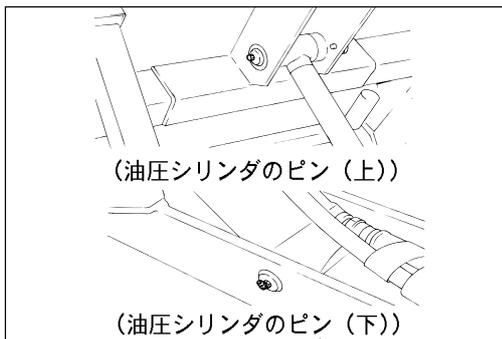
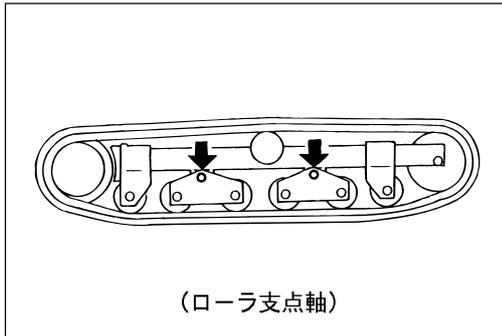
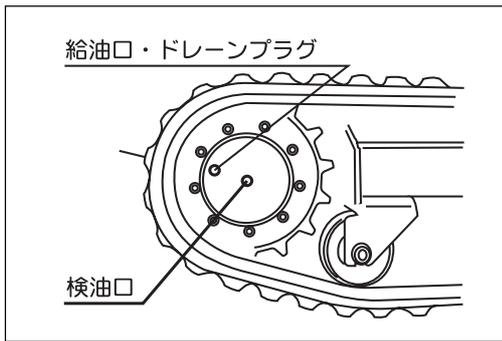
1. オイルを抜取るための適切な容器を用意します。
2. 作動油タンク下のドレンプラグを取外します。

注 記

廃油は適切な処理をしてください。

3. ドレンプラグを取付けます。
4. 給油キャップを開け、オイルを注入します。（上記「補給」を参照）





7.3.3 走行モータ潤滑油（減速機用）

交換

1. 走行モータのドレーンプラグが下方になるように回転させます。
2. ドレーンプラグを外して排油し、締め付けます。
3. 走行モータの検油口が走行モータの中心と水平になり、また給油口が上側になるように回転させます。
4. 給油口よりオイルを給油し、検油口より油が流出するまで注入します。

7.4 給脂・注油

注 記

給脂や注油がおろそかになると、焼き付きや錆付きの原因となり、回転や作動が円滑に行われないおそれがありますので、定期的（100時間毎）に給脂および注油を行ってください。

1. 市販の手動式グリースポンプまたエア式グリースポンプを使用して下記箇所に給脂します。

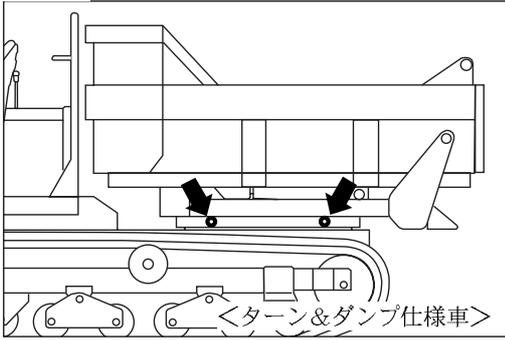
使用グリース：☞31ページ

参考：

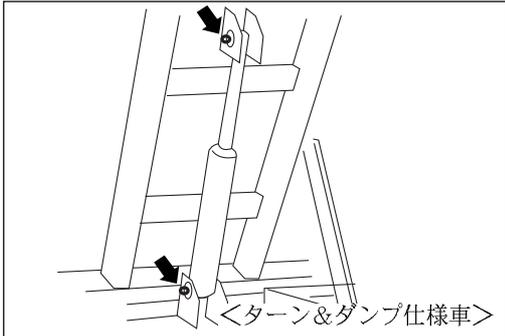
手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに給脂を中止してください。エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒で十分です。

- ① ローラ支点軸（4ヶ所）
- ② 油圧シリンダのピン（上下）
- ③ 荷台支点（2ヶ所）
- ④ ゲートフックレバーのボス（2ヶ所）

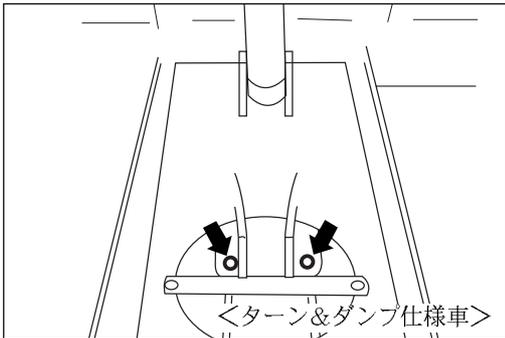
- ⑤ シートブラケット固定パイプ（1ヶ所）
- ⑥ 操向レバー支点（2ヶ所）



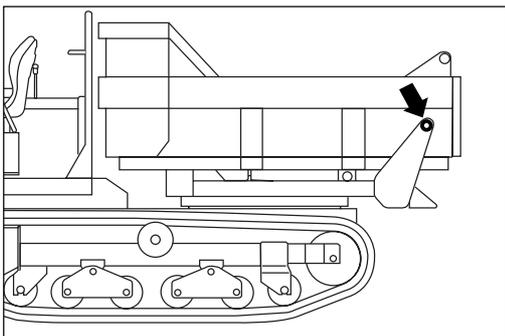
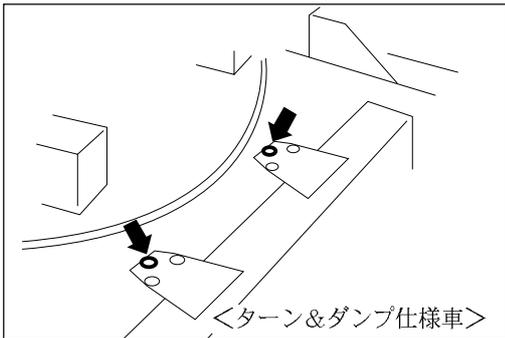
⑦ ターンテーブル旋回輪（4ヶ所）



⑧ 油圧シリンダのピン（上下）



⑨ ターンテーブル下部の油圧シリンダのピン



⑩ 荷台支点（2ヶ所）

7.5 給水

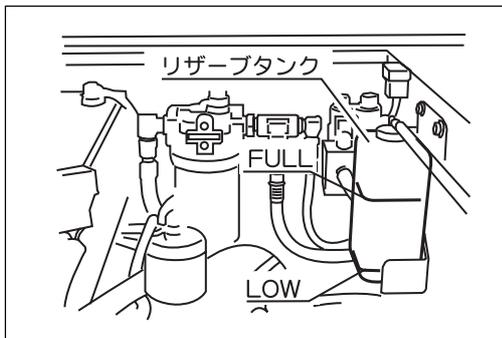
7.5.1 エンジン冷却水

▲ 注意

運転中および停止直後、注水口のキャップを開けると、熱湯が噴出してやけどをすることがありますので、キャップは冷却水が冷めてから（エンジン停止後約30分程度）開けてください。

注 記

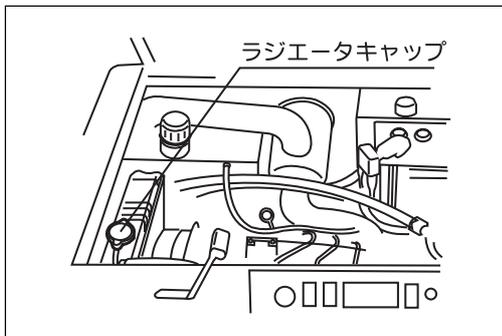
冷却水温ランプが点灯している場合、エンジン冷却水量が不足し、エンジンが十分冷却されていないことを示していますので、必ず点検を行ってください。



点検／補給

1. エンジンカバーを開けます。（☞16ページ）
2. エンジン冷却水量を目視点検し、「FULL」と「LOW」の間にあることを確認してください。不足している場合は補給します。

冷却水量：7.2 ℓ



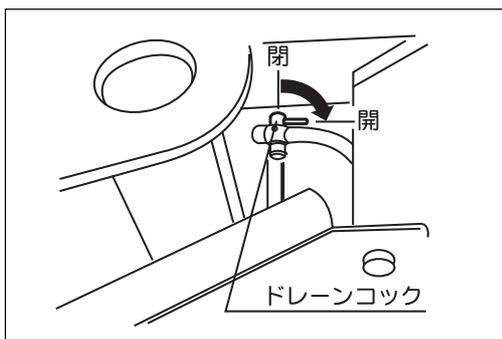
不凍液の混合について（参考）

本製品は工場出荷時に不凍液50%混合済の冷却水を充填しています。

冷却水の凍結を防ぐため、使用する地域の最低気温を元に下表の割合で不凍液を混合してご使用ください。

使用温度	混合割合	使用温度	混合割合
-10℃	30%	-30℃	50%
-15℃	35%	-35℃	55%
-20℃	40%	-40℃	60%
-25℃	45%		

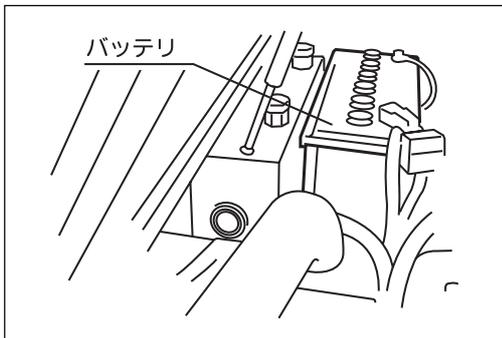
※使用温度は最低気温より5℃低い値を示す。



交換

1. 冷却水を抜取るための適当な容器を用意します。
2. ラジエータ下部のドレーンコックを開けます。
3. 冷却水を抜取り、ラジエータ内を洗浄します。
4. ドレーンコックを閉めてから、冷却水を補給します。
5. ラジエータキャップを取り外し、冷却水を補給します。

7.5.2 バッテリー液

**⚠ 危険**

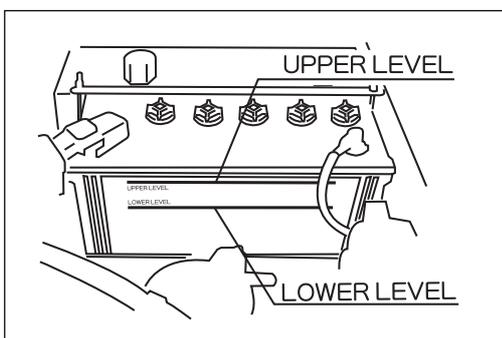
- バッテリーから発生するガスは引火性があるため、バッテリーに火気（煙草の火等）を絶対に近づけないでください。爆発するおそれがあります。
- バッテリーの液面がL.L以下になったまま使用しないでください。バッテリー内部部位の劣化が進みバッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆裂（爆発）の原因となります。
- 乾いた布でバッテリーの清掃をすると静電気により引火爆発するおそれがあります。

⚠ 警告

- バッテリー液をU.L以上補給しないでください。液が漏れて塗装面を傷ついたり、部品を腐食させたりするおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。付着したまま放置すると、バッテリー液（希硫酸）によって、火傷することがあります。
- バッテリーの点検および取外しのときはエンジン停止し、エンジン始動スイッチを「○（切）」にしてください。



点検／補給

1. エンジンカバーを開けます。（☞16ページ）
2. 水で湿した布で液面線の周囲を清掃し、液面がUPPER LEVEL（最高液面線；U.L）とLOWER LEVEL（最低液面線；L.L）の間にあることを確認してください。
3. 液面がU.LとL.L間の半分以下に低下している場合は直ちにU.Lまで（市販のバッテリー補充液など）を補給してください。
4. 補給後は液口栓をしっかり締めてください。

バッテリー液：蒸留水

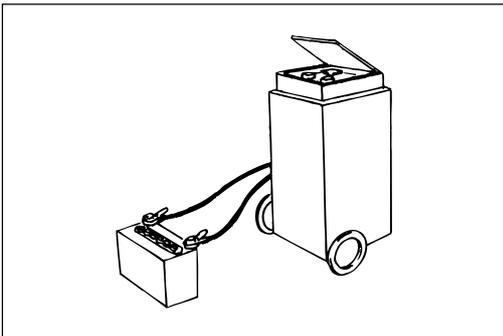
充電

▲ 注 意

- バッテリーは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。
- バッテリーにコードを接続するときは、⊕と⊖を間違えないようにしてください。一度でも間違えるとヒューズが飛び、バッテリーが充電できなくなります。
- バッテリーからコードを外すときは⊖側、取付けるときは⊕側から行ってください。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。
- バッテリーを取外し、再度取付けるときにはバッテリーの⊕、⊖のコードを元どおりに配線し、周りに接触しないように締付けてください。

注 記

急速充電法は、短時間で放電量の幾分かを補うために大電流で充電する方法です。この方法は応急的処置として行うものです。作業が終わったらなるべく早く、正しく補充電をしておいてください。補充電をしておかないと、バッテリーの寿命は極端に短くなります。



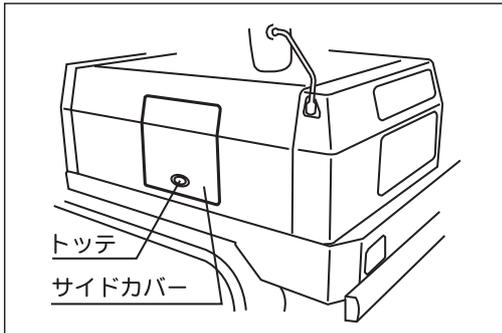
1. バッテリーを取外します。
2. バッテリーの⊕と充電器の⊕、バッテリーの⊖と充電器の⊖をそれぞれ接続して充電します。（使用する充電器の「取扱説明書」の指示に従ってください。）

7.6 清掃・交換

7.6.1 エアクリーナエレメント

注 記

エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引起こすため、定期的に清掃するよう心掛けてください。



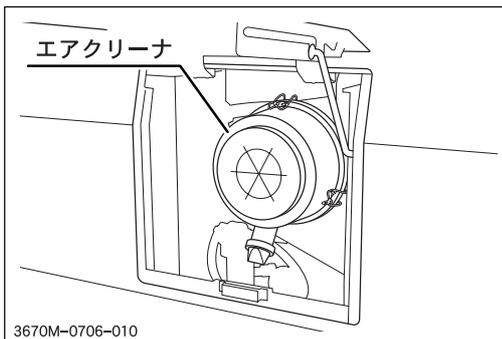
清掃／交換

1. サイドカバーを開けます。
2. エレメント締付け用蝶ボルトを緩めます。
3. エアクリーナエレメントを取外します。
4. エアクリーナエレメントを軽くたたきながらゴミを落とします。または、エレメントを回しながら、圧縮空気を内側から吹付けます。

注 記

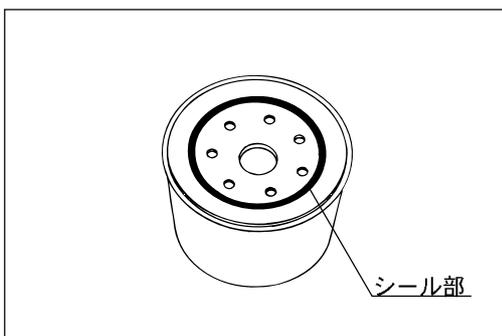
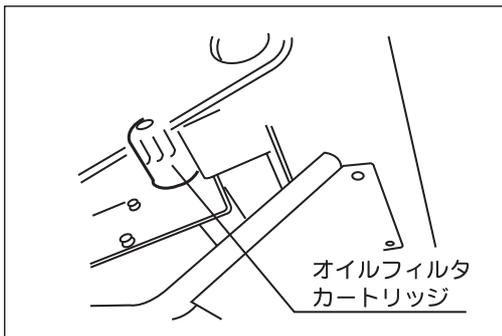
- エアクリーナは乾式ですので、オイルを使用しないでください。
- エレメントは1000時間毎に、新品と交換してください。
- エレメントに穴を開けたときは、すぐに新品と交換してください。

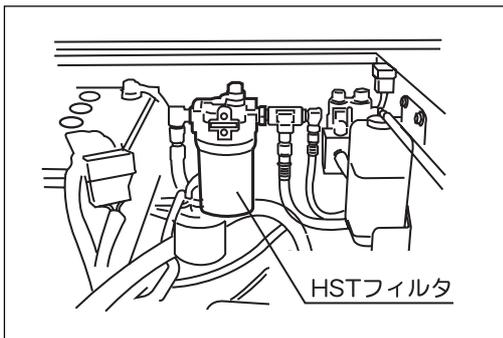
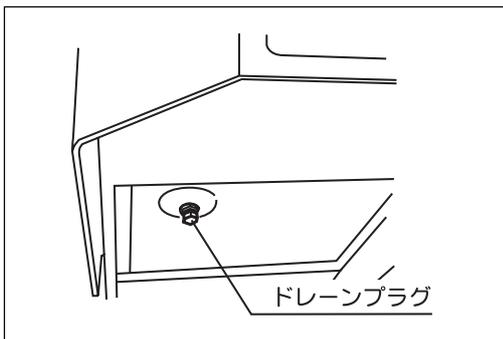
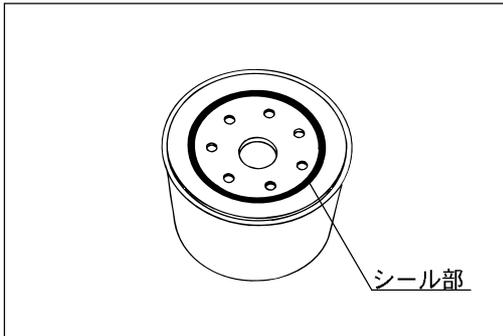
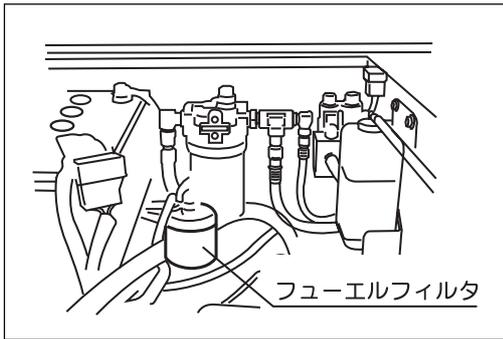
5. エアクリーナエレメントを取付けます。



7.6.2 エンジンオイルフィルタカートリッジ

1. オイルフィルタレンチを使用して、オイルフィルタカートリッジを左側に回し、取外します。
2. エンジン側のフィルタハウジングベースを清掃します。
3. 新品のオイルフィルタのシール部にきれいなエンジンオイルを薄く塗布します。
4. 新品のオイルフィルタを取付け、手でいっぱい締め付けます。
5. エンジン始動後、取付部からオイルの漏れがないか確認します。





7.6.3 フューエルフィルタカートリッジ

注 記

500時間毎に交換してください。

1. オイルフィルタレンチを使用して、フューエルフィルタカートリッジを左側に回し、取外します。
2. 新品のフューエルフィルタカートリッジを取付けます。

注 記

取付け時、Oリングに燃料を薄く塗布して、フィルタレンチを使用せず、手で十分締め付けてください。

3. 取付け後、エア抜きをします。(☞44ページ)

7.6.4 燃料タンクの水抜き

注 記

50時間毎に燃料タンクの水抜きをしてください。

1. 燃料タンク下のドレーンプラグをゆるめて、水抜きおよび沈殿物を排出します。

7.6.5 HSTフィルタエレメント

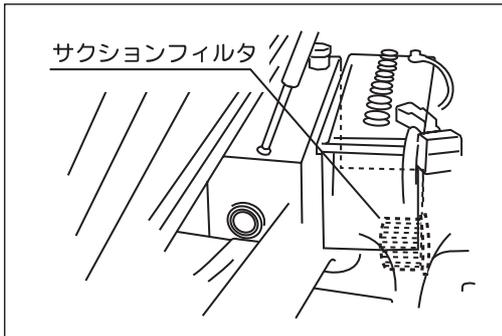
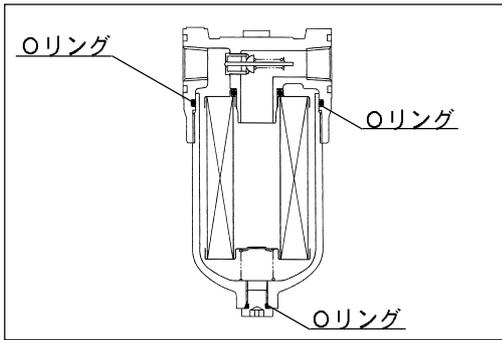
▲ 注 意

オイル高温時には火傷の恐れがあります。

注 記

HSTフィルタインジケータが赤色表示になったらフィルタエレメントの交換時期がきていることを示していますので、フィルタエレメントを交換してください。

1. エンジンカバーを開けます。
2. フィルタ下部を取外します。
3. エレメントを取外し、新品のものと交換します。
4. フィルタエレメント交換後、作動油タンクのオイル量を確認し、不足している場合は補給してください。(☞34ページ)



注 記

Oリングが損傷している場合は、必ず新品と交換してください。

7.6.6 サクシオンフィルタエレメント

▲ 注 意

オイル高温時には火傷の恐れがあります。

注 記

作動油を交換した場合には、サクシオンフィルタエレメントも同時に交換してください。

1. エンジンカバーを開けます。
2. フランジカバー部を取外し、サクシオンフィルタを取外します。
3. エレメントを取外し、新品のものと交換します。

注 記

Oリングが損傷している場合は、必ず新品と交換してください。

7.6.7 ローラのローテーション禁止

注 記

- 固定式ローラと可動式ローラはベアリング等構成部品が異なりますので入れ替えは行わないでください。
- 分解をするときは、あらかじめマーキング等をして間違えのないようにしてください。

7.7 調整

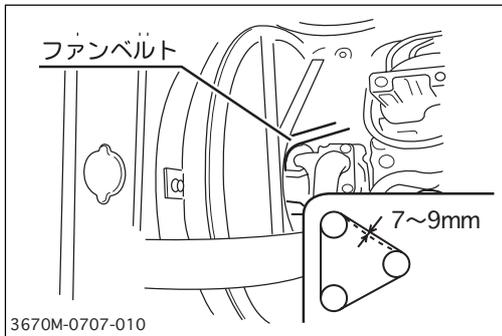
7.7.1 冷却ファンベルトの張り

▲ 注意

エンジンを停止した状態で点検をしてください。

注 記

ベルトの張りが弱いと、ベルトがスリップし、エンジンの冷却能力が低下するだけでなく、寿命を短くします。



点検／調整

1. エンジンカバーを開けます。
2. ファンベルトの中央を指で押さえ、冷却ファンベルトの張りを点検します。

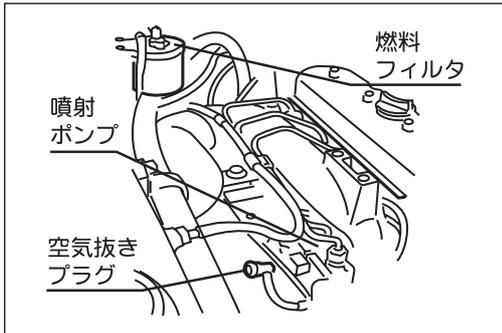
たわみ量：約10kgの力で、7~9mm程度

3. たわみ量が上記の基準値内でない場合は、取付けボルトを緩め、オルタネータを動かし、ベルトの張りを調整します。

7.7.2 燃料系統のエア抜き

注 記

燃料タンク内の燃料がなくなるまで運転を続けると、次回燃料を補給したとき、噴射ポンプに空気が入って燃料を噴射せず、エンジンが始動しなくなるので、下記の要領でエア抜きを行ってください。フューエルフィルタおよび燃料パイプ類を交換した場合も同様に、エア抜きを行ってください。



1. 燃料タンクに燃料を補給します。
2. サイドカバーを開けます。
3. エア抜きプラグをゆるめます。
4. スタータスイッチを「I (ON)」にし、燃料ポンプを5秒程度作動させます。
5. プラグから燃料が出てきたら、プラグを締付けます。

7.7.3 クローラの張り

▲ 警告

- グリースシリンダ内は高圧になっていますので、グリースニップルを緩め過ぎたり急激に緩めるとニップルが飛び出し危険です。体をニップル正面にもって行かないように、又、顔などを近づけないようにして作業を行ってください。

▲ 注意

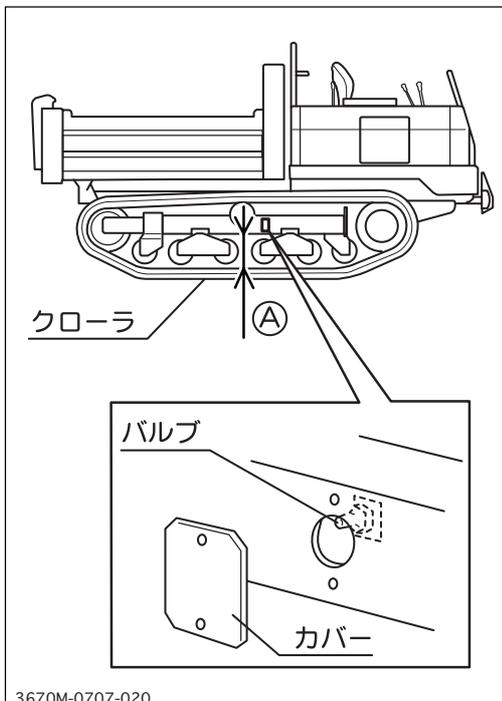
シャーシに支持台を当て、確実に車体を保持してください。

注 記

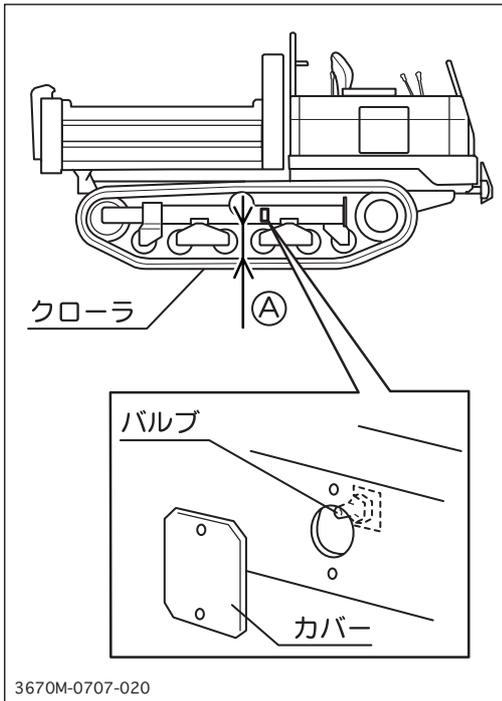
クローラは新品時には初期伸びが発生し、走行距離が多くなると sprocket とのなじみによる緩みが生じるため調整が必要です。クローラの張りが正常でないと、脱輪したり、クローラの寿命を著しく縮める原因になります。

調整

1. 車体を水平な場所に置きます。
2. シャーシの前後をジャッキアップ等して片側のクローラを地面と平行に浮かせます。
3. カバーを取外します。
4. グリースポンプでバルブよりグリースを圧入し、クローラとフレームのすき間（図示Ⓐ）が224～225mm程度（ローラが水平な状態で）になるよう調整します。
5. カバーを取付けます。



3670M-0707-020

**取付け／調整**

クローラが外れた場合は、下記の要領で取付けおよび調整を行ってください。

1. 車体を水平な場所に置きます。
2. シャーシの前後をジャッキアップ等して片側のクローラを地面と平行に浮かせます。
3. カバーを取外します。
4. バルブを緩めて、シリンダ内圧を減少させます。
5. バルブを取外します。
6. フォークを車体前方に押し込みます。
7. クローラをスプロケット側から先にはめ、次にアイドラ側をはめます。

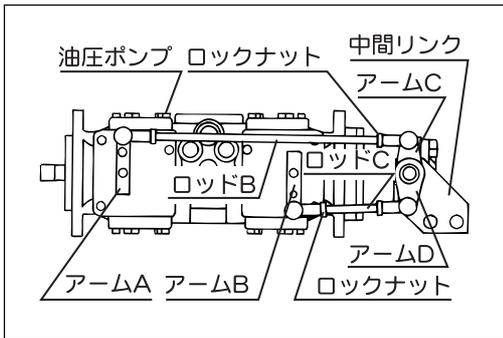
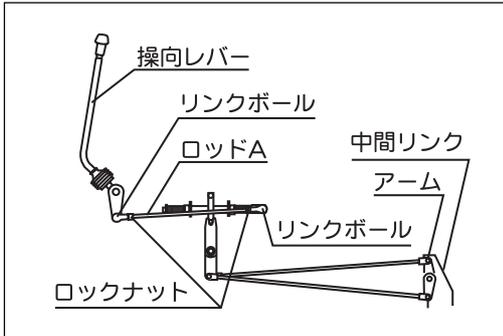
注 記

- クローラは重量があるため、取扱いに十分注意してください。
 - クローラは鉄パイプ等でこじりながらはめてください。
8. バルブのOリングがかみ込まないように注意して、バルブを確実に締付けます。
 9. グリースポンプでバルブよりグリースを圧入し、クローラとフレームのすき間（図示Ⓐ）が224～225mm程度（ローラが水平な状態で）になるよう調整します。
 10. クローラがスプロケットとローラに確実に噛み合っていることを確認した後、車体を降ろします。
 11. カバーを取付けます。

7.7.4 操向レバー

注 記

工場出荷時に適正値に調整してありますので、通常は調整不要です。操向レバーおよびリンク類を交換したときのみ調整が必要です。



1. 操向レバーのリンク部が垂直に立つようにロッドAを回して調整します。
 - (1) ロックナットAを緩めます。
 - (2) ロッドAを回して調整します。
 - (3) 調整後、ロックナットを確実に締付けてください。
2. 油圧ポンプのアームA、アームB、中間リンクのアームC、アームDがすべて垂直になるように軸受けで調整してください。
 - (1) ロックナットを緩めます。
 - (2) ロッドB、Cを回して調整します。
 - (3) 調整後、ロックナットを確実に締付けてください。
3. 2.の状態ですべての操向レバーを前後に最大に倒したとき、アームA、アームBがそれぞれ前後に同じ角度で動くか確認してください。角度がずれている場合は、ロッドB、Cを回して調整してください。
4. 1～3.の調整後、操向レバーを中立位置にし、駐車ブレーキスイッチの「(P) (駐車)」を押した状態にしてエンジンを始動してください。
 - ・駐車ブレーキスイッチを「走行」にして車体が動かなければ中立の設定はOKです。
 - 車体が動く場合は、再度ロッドB、Cを回してアームA、アームBの微調整を行い、中立を確実に設定してください。
5. 4.で中立の設定の終了後、操向レバーを前方・後方に最大に倒したとき、直進することを確認してください。
6. アームA、Bの摺動面にグリースを塗布してください。

7.8 電装品

7.8.1 ヒューズ

点検

注 記

配線の回路に異常を生じたとき、事故を未然に防止するため回路にヒューズを設けています。作業中電気系統に異常を確認したときは、ヒューズの状態をチェックしてください。

1. 下記を参照に、ヒューズが溶断していないか点検します。
 - 燃料ポンプインジケータ（5A）
 - ライト、ホーン（10A）
 - 予備電源（10A）

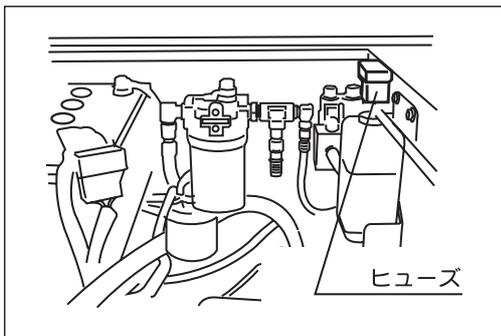
交換

▲ 注 意

ヒューズが溶断しているときは、原因を調査してから指定容量のヒューズと交換してください。指定容量以外のヒューズと交換して、電装品が故障した場合は、保証の対象外となります。

1. エンジンカバーを開け、ヒューズを交換します。

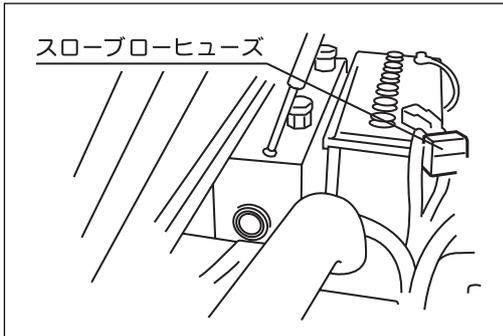
空き		スペア
空き		
空き	5A	スペア
燃料ポンプインジケータ	5A	
ライト ホーン	10A	10A
予備電源	10A	



7.8.2 スローブローヒューズ

注 記

スローブローヒューズは配線を保護するためのものです。スローブローヒューズが切れた場合はその原因を調べ、純正品と交換してください。



- メイン・グロー（50A）
- オルタネータ（30A）

7.9 使用後のお手入れ

（通常時の使用後のお手入れ）

- ・ 使用後は車体に付着した泥や水、異物を取除いてください。エンジンや操作盤の水洗いは水の浸入や錆付きの原因になるため避けてください。
- ・ 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておくと効果的です。

（寒冷期の使用後のお手入れ）

- ・ 使用後必ず車体に付着した泥や水、異物を取除いて、コンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物は凍結して故障の原因となります。（極寒冷地においては、クローラの下に枕木等を車体と直角に敷いておくと効果的です。）

注 記

凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で解かすか、凍結が解けるまで待ってください。無理に動かした場合の故障については責任を負いかねますので特にご注意ください。

- ・ 屋外に放置するときは、防水カバー等を掛けておくと効果的です。

7.10 廃棄物の処理について

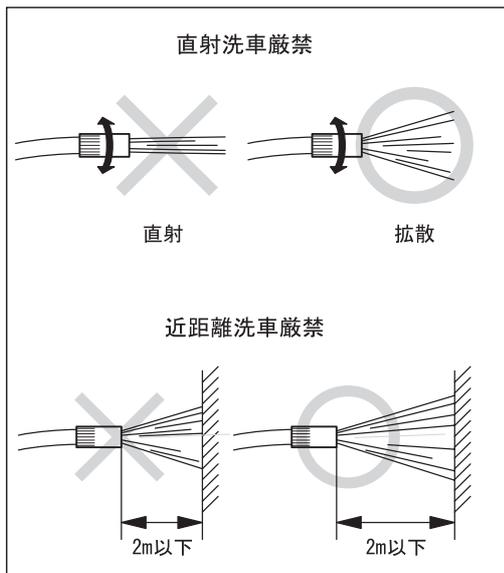
▲ 警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令によって処罰されることがあります。

廃棄物を処理する時は

- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

7.11 洗車時の注意



高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

▲ 注意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2m以上離して洗車してください。

もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

1. 電気配線部被服の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して損傷を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

例) (1) シール・ラベルの剥がれ

(2) 電子部品、エンジン・トランスミッション室内、安全キャブ室内等への浸入による故障

(3) タイヤ、オイルシール等のゴム類、樹脂類、ガラス等の破損

(4) 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

8. 格納（長期保管）

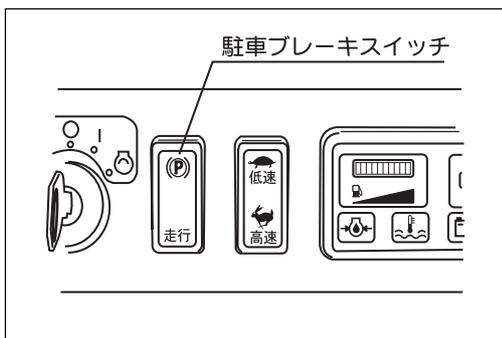
長期保管する場合は、次の使用時に備えて適切な処置をしておく必要があります。長期保管をする際は、使用後のお手入れ（☞49ページ）をした後、以下の指示に従ってください。

▲ 危険

火気のある場所および高温な場所に本機およびバッテリー、燃料等を格納しないでください。火災の原因となり危険です。

注 記

湿気やほこりの多い場所での本機の格納は避け、格納時にはエンジンが冷えてから、防水シートを本機にかけておいてください。



8.1 本機（車両）

1. 外面を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。（☞35ページ）
2. アクセルバーを「☂（低速）」の位置にし、駐車ブレーキスイッチの「P（駐車）」を押しておきます。
3. エンジンキーを抜きます。

8.2 バッテリー

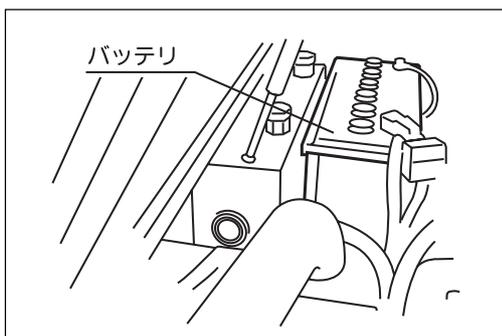
▲ 注意

バッテリー線を外す場合はマイナス（-）を先に、プラス（+）を後で外し、接続する場合はプラス（+）を先にマイナス（-）を後で接続します。

1. サイドカバーを開け、本体（車両）からバッテリーを取外します。
2. バッテリー液の量を確認し、必要な場合は補充します。（☞38ページ）
3. 低温で乾燥した場所に保管します。

参考：

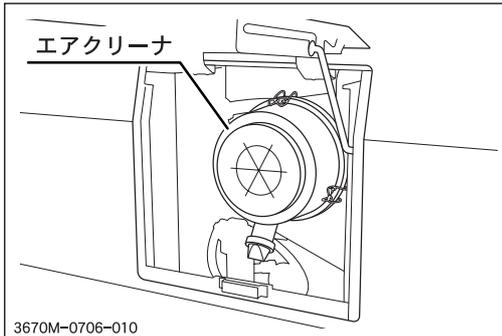
バッテリーは使用しなくとも約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電すると、バッテリーを長持ちさせることができます。



8.3 エンジン

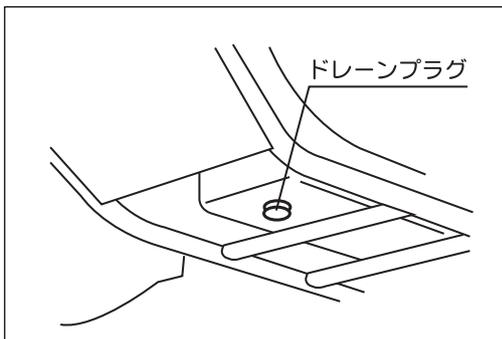
注 記

- 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。また長期間放置した燃料はなるべく使用しないでください。
- エンジン長期保管の詳細については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。



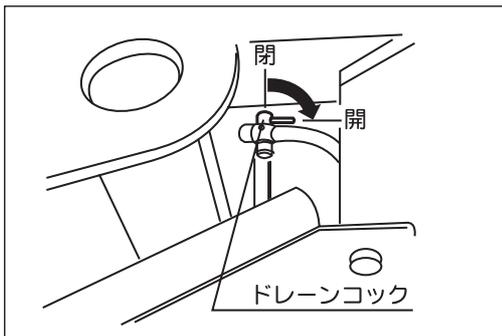
8.3.1 エアクリーナエレメントの清掃

1. エンジンカバーを開けます。(☞16ページ)
2. エアクリーナエレメントを取外し、確実に清掃します。(☞40ページ)



8.3.2 エンジンオイルの交換

1. エンジンオイルを抜取り、新しいエンジンオイルと交換します。(☞32ページ)



8.3.3 エンジン冷却水の排出

1. エンジン冷却水を完全に抜き取ります。(☞37ページ)

9. 不具合発生時の処置

- 不具合と考えられる現象が起きた場合は、本機の使用を停止し、下記の「不具合診断表」を参照して適切な処置をしてください。「不具合診断表」に掲載されていない不具合が発生した場合や適切な処置を行っても不具合が解消されない場合は、販売店まで連絡してください。
- 処置については、専門的な整備知識を必要とするものもありますので、整備が難しいものについては、販売店に依頼してください。

9.1 不具合診断表

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処 置
エンジン 関連	エンジンがかからない またはかかりにくい	<ul style="list-style-type: none"> 燃料不足 燃料への空気の混入 燃料への水の混入 バッテリーの容量不足 (セルモータの起動不良) 電気配線の接触不良または断線 エンジンオイルの不足または品質不良 スタータスイッチ、モータ、リレーの作動不良 その他 (上記以外) 	<ul style="list-style-type: none"> →補給する (☞16ページ) →エア抜きをする (☞44ページ) →水抜きをする (☞41ページ) →バッテリー液を補給する (☞38ページ) →バッテリーを充電する (☞39ページ) →バッテリーを交換する →修理する (販売店へ依頼してください) →補給または交換する (☞32ページ) →販売店へお問い合わせください →本書の第6章6.2項「始動のしかた」の手順に従って再度始動を試み、始動不可能の場合は販売店へ修理を依頼してください。
	すぐにエンストする	<ul style="list-style-type: none"> 燃料不足 燃料ホース内の空気混入 暖機運転の不足 	<ul style="list-style-type: none"> →補給する (☞16ページ) →エア抜きをする (☞44ページ) →十分暖機する
	エンジンが突然停止した	<ul style="list-style-type: none"> 燃料切れ エンジンオイル不足またはオイル劣化による焼き付き 	<ul style="list-style-type: none"> →補給する (☞16ページ) →点検および補給する (☞32ページ)

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処 置
エンジン 関連	アイドリング不良 (エンジン回転にムラがある)	<ul style="list-style-type: none"> • 噴射ポンプの機能不良 • 噴射時期の不適正 • 圧縮圧力不足 • 吸入空気量の不足 (エアクリーナの目詰まり) 	<p>→ 販売店へお問い合わせください</p> <p>→ 販売店へお問い合わせください</p> <p>→ 販売店へお問い合わせください</p> <p>→ 清掃または交換する (☞40ページ)</p>
	出力または加速不足	<ul style="list-style-type: none"> • 燃料不良 • エンジンオイルの粘度不適正 • アクセルの調整不良 • 吸入空気量の不足 (エアクリーナの目詰まり) • 過積載 • 噴射ポンプの機能不良 • 噴射時期の不適正 • 圧縮圧力不足 	<p>→ 燃料を交換する</p> <p>→ 適正なオイルと交換する</p> <p>→ 販売店へお問い合わせください</p> <p>→ 清掃または交換する (☞40ページ)</p> <p>→ 積み荷を減らす</p> <p>→ 販売店へお問い合わせください</p> <p>→ 販売店へお問い合わせください</p> <p>→ 販売店へお問い合わせください</p>
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする	<ul style="list-style-type: none"> • エンジン取付けボルトの緩み • その他 	<p>→ 増締めする</p> <p>→ 販売店へお問い合わせください</p>
	エンジンオイルの消費が早い	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンオイルの漏れ • シリンダ、ピストンリングの摩耗 	<p>→ 点検および修理する</p> <p>→ 点検および修理する (販売店へ依頼してください)</p>
	エンジンのオーバーヒート	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンオイルの不足 • エンジン冷却水の不足 	<p>→ 補給する (☞32ページ)</p> <p>→ 補給する (☞37ページ)</p>

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処 置
エンジン 関連	燃料の消費が早い	<ul style="list-style-type: none"> 燃料系統からの燃料漏れ エアクリーナの目詰まり 噴射ポンプの機能不良 噴射時期の不適正 圧縮圧力不足 	→ 点検および修理する（販売店へ依頼してください） → 清掃または交換する（☞40ページ） → 販売店へお問い合わせください → 販売店へお問い合わせください → 販売店へお問い合わせください
	黒煙が多量に出る（排気状態の不良）	<ul style="list-style-type: none"> 圧縮不良 燃料不良 エアクリーナの目詰まり 	→ 点検および修理する（販売店へ依頼してください） → 燃料を交換する → 清掃または交換する（☞40ページ）
	白煙または青煙が出る（排気状態の不良）	<ul style="list-style-type: none"> エンジンオイルが入り過ぎている オイル粘度が低すぎる シリンダ、ピストンリングの摩耗 	→ 点検後、オイル量を調整する（☞32ページ） → 適正なオイルと交換する → 点検および修理する（販売店へ依頼してください）
	アクセルレバーが引っ掛かる	<ul style="list-style-type: none"> アクセルロッドおよびワイヤの変形、錆付き 	→ 交換する（販売店へ依頼してください）
動力伝達 装置関連	操向レバーを前進または後進の位置に入れても車体が動かない	<ul style="list-style-type: none"> 駐車ブレーキが効いている 油圧系統の不具合 HST内部の故障 過積載 	→ 駐車ブレーキの解除 → 「油圧装置関連」の項を参照（☞55ページ） → 販売店へお問い合わせください → 積み荷を減らす
	旋回不良	<ul style="list-style-type: none"> 油圧系統の不具合 HST内部の故障 過積載 	→ 「油圧装置関連」の項を参照（☞55ページ） → 販売店へお問い合わせください → 積み荷を減らす

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処 置
制動装置 関 連	駐車ブレーキが効かない	<ul style="list-style-type: none"> 油圧システムの不具合 走行モータ内のブレーキディスクの摩耗 	<p>→「油圧装置関連」の項を参照（下記参照）</p> <p>→販売店へお問い合わせください</p>
油圧装置 関 連	油圧装置（油圧モータ、油圧シリンダ）が作動しないまたは作動不良	<ul style="list-style-type: none"> 作動油の不足または劣化 油圧回路への異物の侵入 フィルタエレメントの目詰まり 油圧システムからのオイル漏れ 油圧ポンプの吐出不足 その他 	<p>→給油または交換する（☞34ページ）</p> <p>→除去する</p> <p>→交換する（☞41ページ）</p> <p>→点検および修理する</p> <p>→販売店へお問い合わせください</p> <p>→販売店へお問い合わせください</p>
車 体 関 連	車体の異常振動またはバランスが悪い	<ul style="list-style-type: none"> クローラが脱輪している ローラ、アッパーローラ、アイドラ、スプロケット、取付けボルトの緩み ベアリングの破損 	<p>→取付けおよび調整する（☞45ページ）</p> <p>→点検および増締めする</p> <p>→交換する（販売店へ依頼してください）</p>
	車体の直進性が悪い	<ul style="list-style-type: none"> ローラ、アッパーローラ、アイドラ、スプロケットの破損 	<p>→点検および修理する</p>
荷 台 関 連	テールゲートの開閉不良	<ul style="list-style-type: none"> 調整不良 回転部に異物が付着 	<p>→調整する</p> <p>→除去する</p>

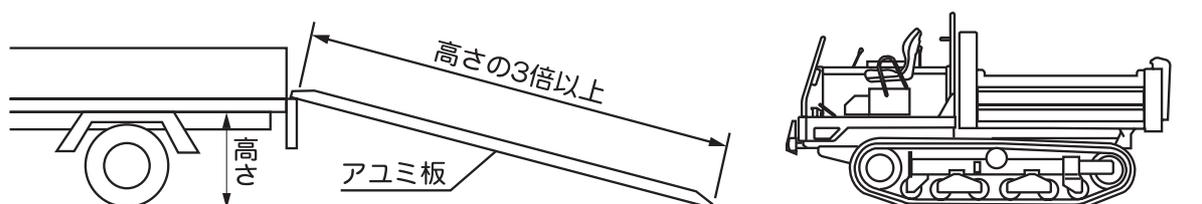
発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処 置
安全装置 関 連	ランプの点灯不良	<ul style="list-style-type: none"> 配線不良 球切れ ヒューズ切れ 	→接続する →交換する →交換する (☞48ページ)
	エンジン始動後も、ウォーニングランプが点灯する (1) チャージランプ (2) オイルランプ	<ul style="list-style-type: none"> カブラ・配線の外れ エンジンオイルの不足または潤滑システムの異常 	→接続する →補給する (☞32ページ)
安全装置	ホーンが作動しない	<ul style="list-style-type: none"> ホーンの配線の端子の外れまたは断線 ヒューズ切れ 	→接続または修理する →交換する (☞46ページ)

10. 本機の移送

10.1 自動車（トラック等）への積み降ろし要領

本製品を自動車へ積み降ろしする際は、下記の手順および注意事項を遵守してください。

1. トラックを平坦な場所に止め、軸止めを必ずしてください。
2. アユミ板は、十分な強度（機械重量および運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（クローラの幅の1.2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面の高さの3倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し、本機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。また、アユミ板の勾配は20°以下にしてください。
3. アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。
4. 高低速切替スイッチを「（低速）」、前進にてゆっくりと積み込んでください。



⚠ 危険

- 作業中は本機およびアユミ板の周辺には、人を近づけないようにしてください。
- アユミ板上での方向変換は行わないでください。転落の危険があります。

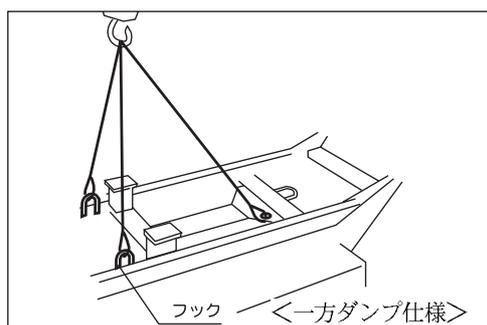
⚠ 注意

積み込み後は駐車ブレーキスイッチの「P（駐車）」を押して、駐車ブレーキを確実にかけ、ロープ、ワイヤ等で本機を固定してください。また、クローラには歯止めをしてください。

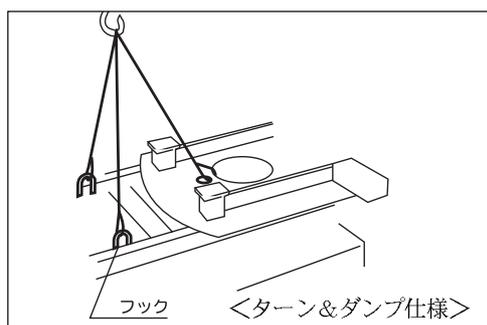
10.2 クレーン等による吊り上げ要領

▲ 警 告

吊り上げ作業は必ず空車状態で行ってください。



1. 荷台をダンプさせ、荷台落下防止棒で荷台を固定します。(☞24ページ)
2. フレームについている吊り上げ用フック (3ヶ所) にワイヤーロープを掛け、吊り上げてください。その際、車体が水平になるようにワイヤーロープの長さを調整してください。



3. 玉掛用具 (ワイヤーロープ、チェーン等) は十分な強度があるものを使用してください。

注 記

クレーンの運転及び玉掛には資格が必要です。資格のない人は作業をしないでください。

11. 消耗品と交換インターバル

項 目	部品番号	交換インターバル	個数	参照ページ		
エアクリーナエレメント (外側)	R1404-42271	1年毎 (6回清掃毎)	1	☞40ページ		
エアクリーナエレメント (内側)	R2401-42281	1年毎 (6回清掃毎)	1	☞40ページ		
フューエルフィルタエレメント	36640221500	450時間毎	1	☞41ページ		
エンジンオイルフィルタカートリッジ	36610001300	200時間毎(初回は50時間)	1	☞40ページ		
HSTフィルタエレメント	36616036300	500時間毎	1	☞41ページ		
サクシオンフィルタエレメント	36636029000	1000時間毎	1	☞42ページ		
バッテリー	36610502000	不具合があれば交換	1	☞39ページ		
クローラ	36402231000	不具合があれば交換	2	☞45ページ		
プッシュプルワイヤ (エンジンコントロール用)	37073321000	不具合があれば交換	1			
ワイヤ (エンジンコントロール用)	36550105100	不具合があれば交換	1			
スプロケット15T	36632106000	不具合があれば交換	2			
ローラA Assy	52292201000	不具合があれば交換	8			
ローラB Assy	52292211000	不具合があれば交換	4			
シジテンリン Assy	36402218000	不具合があれば交換	2			
ユウドウリン Assy	36402331000	不具合があれば交換	2			
油圧ホース	配管接続ポート				交換は販売店 に依頼して ください	
	HSTポンプ前右 A1	HSTモータ左上 P1	52296101000	2年毎または不具合があれば交換		1
	HSTポンプ前左 B1	HSTモータ左下 P2	52296102000	2年毎または不具合があれば交換		1
	HSTポンプ後左 B2	HSTモータ右下 P2	36646101200	2年毎または不具合があれば交換		1
	HSTポンプ後右 A2	HSTモータ右上 P1	52296104000	2年毎または不具合があれば交換		1
	HSTモータ左ドレンT1	オイルタンク	52296111000	2年毎または不具合があれば交換		1
	HSTモータ右ドレンT2	オイルタンク	52296112000	2年毎または不具合があれば交換		1
	ポンプ前上ドレン	オイルクーラ上	52296115000	2年毎または不具合があれば交換		1
	オイルクーラ下	オイルタンク (パイプ)	52296116000	2年毎または不具合があれば交換		1
	ソレノイドバルブ A2	チーズ (PS)	52296117000	2年毎または不具合があれば交換		1
	チーズ(ソレノイドバルブA1)	チーズ (P3)	52296118000	2年毎または不具合があれば交換		1
	チーズ(ソレノイドバルブA1)	チーズ (サーボ)	52296119000	2年毎または不具合があれば交換		1
	チーズ(モータ右PS)	モータ 左 PS	52296121000	2年毎または不具合があれば交換		1
	チーズ(モータ右P3)	モータ 左 P3	52296122000	2年毎または不具合があれば交換		1
	チーズ(モータ左PS)	モータ 右 PS	52296123000	2年毎または不具合があれば交換		1
チーズ(モータ左P3)	モータ 右 P3	52296124000	2年毎または不具合があれば交換	1		

項 目		部品番号	交換インターバル	個数	参照ページ	
配管接続ポート						
油圧ホース	ソレノイドバルブT	オイルタンク	52296125000	2年毎または不具合があれば交換	1	交換は販売店 に依頼して ください
	ギヤポンプ吐出 後上	コントロールバルブP	36646128000	2年毎または不具合があれば交換	1	
	ギヤポンプ吸入 後下	オイルタンク(フランジ)	52296126000	2年毎または不具合があれば交換	1	
	ソレノイドバルブP	チーズ(ラインフィルタOUT)	52296131000	2年毎または不具合があれば交換	1	
	コントロールバルブT	ラインフィルタIN	52296132000	2年毎または不具合があれば交換	1	
	HSTチャージ	チーズ(ラインフィルタOUT)	52296133000	2年毎または不具合があれば交換	1	
	HSTサーボ前	チーズ(サーボ)	36646141000	2年毎または不具合があれば交換	1	
	HSTサーボ後	チーズ(サーボ)	52296119000	2年毎または不具合があれば交換	1	
油圧ホース	コントロールバルブA	シリンダ 下	36616163000	2年毎または不具合があれば交換	1	
(一方ダンプのみ)	コントロールバルブB	シリンダ 上	52296142000	2年毎または不具合があれば交換	1	
油圧ホース	ターンシリンダクロス配管		36616168000	2年毎または不具合があれば交換	2	
(回転ダンプのみ)	コントロールバルブA2	シリンダ 右	36616163000	2年毎または不具合があれば交換	1	
	コントロールバルブB2	シリンダ 左	36706151000	2年毎または不具合があれば交換	1	
	コントロールバルブA1	スイベル 右	36616182000	2年毎または不具合があれば交換	1	
	コントロールバルブB1	スイベル 左	36616182000	2年毎または不具合があれば交換	1	
	スイベル 左 B1	ダンプシリンダロッド	36616177000	2年毎または不具合があれば交換	1	
	スイベル 右 A1	ダンプシリンダヘッド	36616178000	2年毎または不具合があれば交換	1	
上記以外で交換が必要と思われる部品については販売店（当社センター）へお問い合わせください。						

株式会社 筑水キャニコム

<http://www.canycom.co.jp>

■本社営業本部 ☎0943(75)2195(代) FAX (75)4396

■海外センター ☎03(3552)6255(代) FAX (3552)6288

■東京センター ☎03(3552)6255(代) FAX (3552)6288

■仙台センター ☎022(281)1255(代) FAX (281)3141

■埼玉センター ☎0495(77)4511(代) FAX (77)1561

■大阪センター ☎0790(42)6031(代) FAX (42)6035

■広島センター ☎0824(34)5996(代) FAX (34)5997

■福岡センター ☎0943(76)2583(代) FAX (75)5126

連絡先控え（販売店名）